

中ながいいネ!

中区地域福祉保健計画



元街小4年 前田 美幸さんの作品

みんなが安心して安全にらせるようにつくりました。

それからみんながけんかをしないで、みんなで友だちになれるようにつくりました。

2006年3月

横浜市中区

横浜市中区社会福祉協議会

◆中区地域福祉保健計画策定委員長のことば

日本の社会福祉は21世紀に入る前後から明らかに姿を変えつつあります。たとえば介護保険の導入は伝統的な老人福祉のイメージを一新しました。われわれ一般市民がもっと成長し、自分たちが暮らす地域社会、身近な生活問題、さらには社会福祉の課題などについて主体的に考え、行動しなければならない時代に入ったようです。

中区地域福祉保健計画の「中なかいいネ！」は、国の法律に基づいて策定をすすめてきましたが、そのために中区に暮らす区民と何度も地域での話し合いを企画しました。中区ほどさまざまな表情を合わせ持つ個性的な自治体は他にないと私は自負しています。この「計画」でも区内を13地域に分け、それぞれの地域で住民に語っていただき、それぞれの地域活動のあり方を模索しています。

ますます都市化が進展するわがまち中区ですが、一人ひとり人の区民が福祉関係者や行政と協力しながら、安心して暮らせる住みやすいまちを創造したいと願いながら、この「計画」を作成しました。

一緒に手を携えて行動を起こしましょう。



策定委員長 清水 浩一

◆中区地域福祉保健計画「中なかいいネ！」発刊にあたって

この計画は区民の皆様、地域の特性を考慮した日常生活における生活課題を何うことから始まり、その課題を解決するための方策を地域で話し合っていたいただき、具体化に向けての取り組みを開始しました。

また、福祉保健関係団体に対するアンケート調査やインタビューなども行い、できるだけ多くの方のご意見をお聴きし、これを地区別に整理し、併せて、現在地域の方達がどのような活動を行っているかについてもご紹介させていただいています。

そして、この計画の実現は、区役所の事業だけではなく、区民の皆様方が地域を“生活の場”であることを認識し、協働の考え方にに基づき活動していただくことこそが、その達成に近づくものであると考えています。

人々の日常の生活課題を地域と区役所が協働して解決し、安心して暮らしていける地域づくりを行うこと、地域の皆様方がお互いに支えあい助け合う仕組みが生まれ、さらにそれが強固なものとなるのがこの計画の目的であり、そしてその実行は「小さく、ながく、あせらずに」行っていくことが大切であると思います。

最後にこの計画の策定に参画された地域の皆様方を始め、策定委員会委員、福祉保健関係団体、地域ケアプラザ、区・地区社会福祉協議会の皆様方に厚く御礼申し上げます。

中区地域福祉保健計画はこれからがスタートです。引き続き皆さんとともに「だれもが暮らしやすい中区」の実現のために力を尽くしてまいりたいと思います。



中区長 大浜 悦子

◆中区地域福祉保健計画「中なかいいネ！」発刊によせて



中区地域福祉保健計画「中なかいいネ！」が完成をいたしました。私は中区連合町内会長連絡協議会会長をつとめさせていただいておりますので、中区役所の担当の方から、計画の基本理念や策定方法などについてお話を聞く機会が何回かありました。

それによるとこの計画は、策定当初から住民の皆さんの生の声を聴き、行動の伴う具体的な計画にしていくということですので、私も地域住民の一人として話し合いにも参加させていただきました。ここでは自治会における活動のまちづくりから発災時の要援護者の援助方法、地区の高齢者や子どもの見守りなど、実に様々な意見が出され、住民の皆さんがいかにか中区を愛し、より暮らしやすい地域にしたいと願っているかということを感じました。

こうした話し合いで出された意見等をもとに、住民の皆さんや福祉保健関係団体の皆さん、区役所や公的機関の皆さんが一緒になって取り組んでいくことを聞き、まさにこれこそが「協働」の精神であり、中田市長が描いている市政を推進していく方向性だと感じました。

これからは、この計画を実行していくために中区が一体となって邁進していかなければならず、そういった意味では自治会・町内会の持つ役割は非常におおきなものであります。私も中区連合町内会長連絡協議会会長として自治会・町内会長の牽引役としての役割を担い、誰もが暮らしやすい中区づくりに微力ながら力をつくしてまいりたいと思います。

中区連合町内会長連絡協議会
会長 高橋 柢祐

◆中区地域福祉保健計画「中なかいいネ！」発刊によせて



中区社会福祉協議会は、地域の皆様と共に「だれもが住みよく、生き生き暮らせるまちを、皆で協力し合い、つくりあげていく」ことを基本理念として各種事業を行っております。

この度、本会が策定しました「地域福祉活動計画」は、「知りあい、出あう大切さを育てよう」「住みよい環境を皆でつくろう」「新しい取り組みを生みだそう」「交流のさかんなまちづくりをめざそう」をキャッチフレーズにまとめました。地域の皆様がお互いに「つながり」を持ち、思いやりを持って、共に支えあい、助けあうという地域福祉を推進するために、区内の全区域に組織された12地区社協を核として地域力を高めていただき、多くの福祉団体とのネットワーク化から支え合うといった仕組みづくりに取り組んでまいります。そして、中区役所が策定した「地域福祉保健計画」と連携しながら、今後の地域福祉の推進に向けて協働して取り組んでまいります。私どもは、誰もが安心して暮らしやすいまちづくりへ向けて、地域の方々の相互の助けあいが必要であると感じております。今後とも、皆様と共に、より身近な地域で、お互いが「出あい、支えあい、助けあい」を実感できる地域環境を推進してまいります。

社会福祉法人横浜市中区社会福祉協議会
会長 大澤 久子

目次

第1章 地域福祉保健計画の概要について

- 1 中区のようす ～こんなまちです～ P 2
- 2 この冊子をご覧いただいている皆さんへ P 5
～計画の趣旨・基本理念と目標～
- 3 「中なかいいネ！」の作り方 P 7
～みんなで作ります～
- 4 計画をどのように実施していくか P 8
～推進と支援、振り返り～
- 5 今こんな取り組みをしています P 11
～事例紹介～
- 6 関係団体アンケート P 16
～つながるといいネ、いろんなこと～

第2章 地区別の計画 ～みんなで、行政やケアプラザと一緒に～ . . . P 18

第3章 ～中なかいいネ！～区社会福祉協議会として（中区地域福祉活動計画） P 49

資料編

- 平成16年度地域話し合い12地区の課題のまとめ P 56
- 策定委員名簿 P 83
- 寿地区計画検討報告書（別冊）

第1章 地域福祉保健計画について

この計画は、こんな位置付けでつくられる計画です。

中区では、区民の皆様の福祉保健サービスとして、介護保険法や障害者自立支援法などの法令が根拠の社会保障としてのサービスや、市独自の核家族化や少子高齢化を受けた様々な福祉保健サービスを提供しています。また、地域では、民生委員・児童委員、主任児童委員や保健活動推進員などの方々が、区民の皆さんが安心して暮らせるよういろいろな活動を行っています。

今回策定する地域福祉保健計画は、社会福祉法第107条の規定に基づき、このようなサービス提供や活動に加え、皆さんの日常生活の課題を解決し、地域における健康づくりなども含め、福祉保健課題を地域の力で解決できるよう取り組む計画です。

① 中区のようす ～こんなまちです～

【歴史】

現在の中区は、横浜開港以前には、一寒村である横浜村、吉田、太田屋新田の埋立地、その周辺にある半農半漁の本牧・根岸の村々で構成されていました。

横浜は開港以来、西洋文明を取り入れる国際的な窓口となり、その中心である中区は横浜の都市機能の中核としての役割を果たしてきました。

関東大震災、第2次世界大戦における横浜大空襲、関内、山手など殆どの区域の接收に伴い都市計画が遅れた時期もありましたが、中区は県庁所在地ー横浜の行政・経済の中心地として、また観光、商業、港湾地区をもつにぎわいのある中心地として発展してきました。昭和50年以降は、都市部を中心に都市デザインの考え方が取り入れられ、横浜の歴史や文化を活かした街づくりが進められている一方、中区の顕著な課題として、寿地区の対応や繁華街の防犯の課題があります。

【人口】

出生が死亡を上回っていた状況も平成元年に同数となり、それ以降、死亡が出生を上回る自然減の傾向にありましたが、現在では市内外からの転入による社会増があり、全体として人口は増加傾向にあります。（平成17年10月1日現在 140,101人）

【昼夜間人口・外国人登録】

中区の昼間人口は夜間人口を100とすると202.3と市平均の90.5を大きく上回っています。これは、みなとみらい線が開業し、中華街などの商業地や観光地の活気が一段と増すとともに、官庁街などを抱える就労の区域であることが要因のひとつと考えられます。（平成12年10月1日現在）

また外国人の登録人口は、昭和60年7千人だった外国人が1万4千人となり、区人口にしめる割合も5.9%から10.0%と大きく伸びています。（平成17年3月31日現在）

【高齢化率】

中区における高齢化率は約19%となり、横浜市で常に上位に位置し、平成15年から17年の2年間で65歳以上の高齢者が1,400人増加(増えた人口の22.5%)するなど、さらに高齢化が進展しています。

【幼年人口】

都心居住志向の高まりによるマンション建設が続いており、若い世代や幼年年齢者が増加しています。

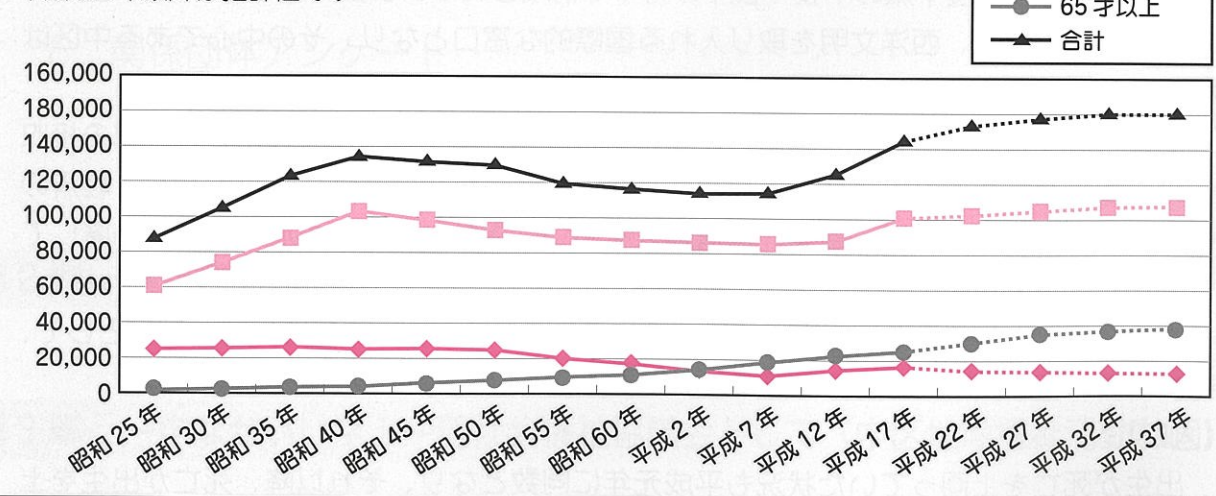
【20年後の姿】

「横浜市の将来人口推計(区別推計)について(作業値)」によると、中区の2005年の人口は約14万人で、20年後の2025年では2万人(14%)増の約16万人と、2025年までは人口の増加傾向が続くと推計されています。

このような状況においては高齢者などの要援護者に対する福祉保健施策の展開が質・量ともますます強く求められることとなります。

図1 中区の人口の推移

平成22年以降は推計値です

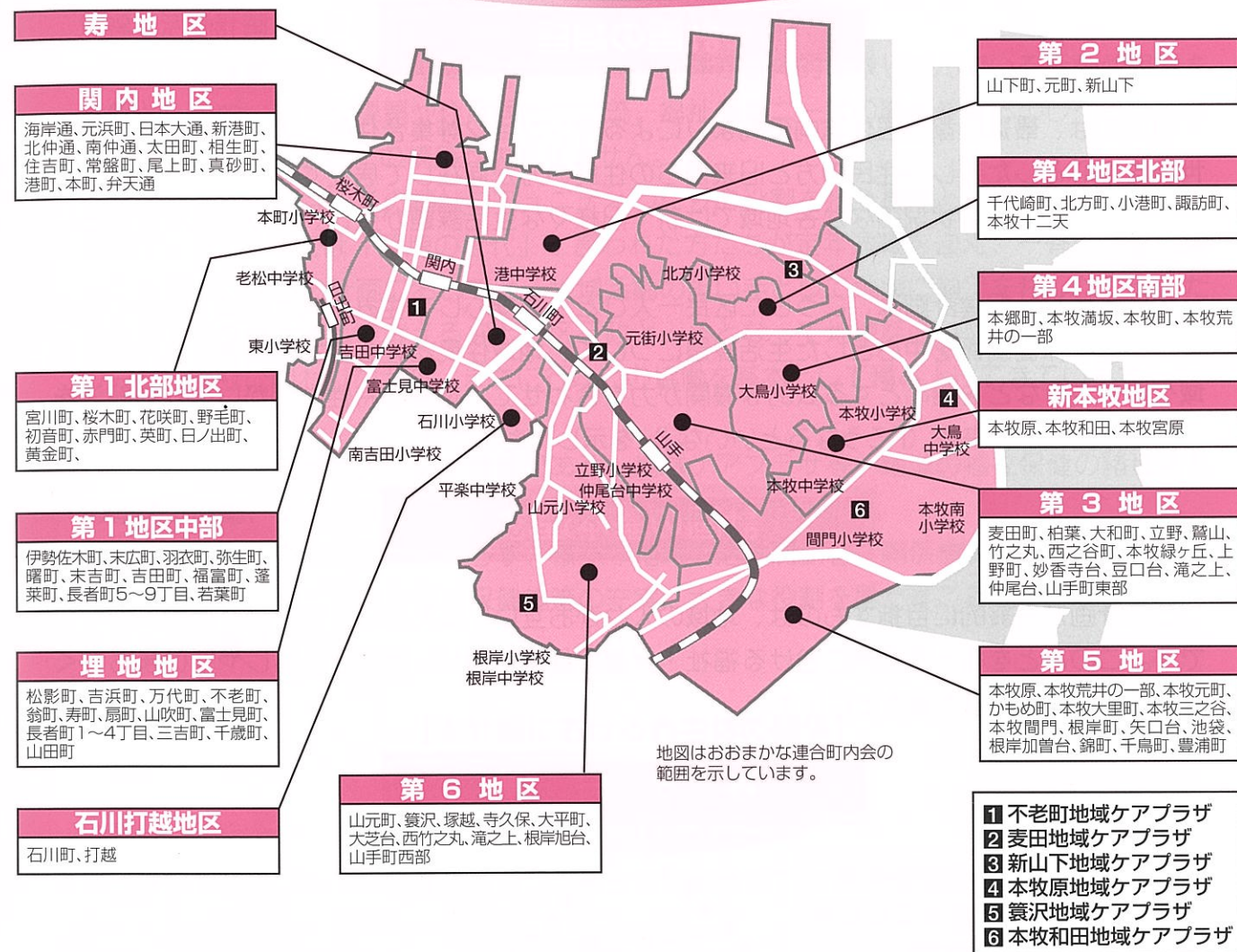


(参考) 社会福祉法第107条 抜粋

第107条 市町村は、地方自治法第2条第4項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画(以下「市町村地域福祉計画」という。)を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を営業者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、その内容を公表するものとする。

- 1 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
- 2 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- 3 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

多様なかおをもつまちです



地図はおおまかな連合町内会の範囲を示しています。



いたるところに坂道が...



高層マンションが増えてきました



観光都市ヨコハマの顔です



世界中の港から港へコンテナが行き交います



官公庁も集中



いろいろな人が集まる繁華街

② この冊子をご覧いただいている皆さんへ
～ 計画の趣旨・基本理念と目標 ～

計画の趣旨

中区では、最近の都市居住志向の高まりによるマンション等集合住宅の建設が相次ぎ、若い世帯を中心とした新しい住民の方と旧来からの住民の方が混在して居住する状況が増えてきています。このような状況のなか各地域では新・旧様々な生活課題が生じ、様々な人々が暮らしています。

中区地域福祉保健計画は、こうした区民一人ひとりが安心して住みなれた地域で生活できるよう、福祉保健関係を中心とした生活課題について、地域住民と社会福祉協議会、区役所、地域ケアプラザなどを始めとする公的な機関が力を合わせて、地域の特性を活かしながら解決を目指す方向性や将来像（「こうなるといいな」）を示したものです。

計画の基本理念

この計画が最終的に目指すものは、地域の人々がお互いに支えあい、助け合う仕組みづくりです。このことをもって地域における福祉・保健の推進を図り、誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるための基本理念とします。

基本目標

基本理念を実現するため、中区では地域の皆さんのご意見を整理して4つの基本目標としました。

4つの基本目標

- 知り合い、出会う大切さを育てよう
- 住みよい環境をみんなで作ろう
- 新しい取り組みを生み出そう
- 交流のさかなまちづくりをめざそう

基本理念

支えあい助け合う仕組みづくり

誰もが暮らしやすいまちの実現

計画の性格 ～みんながつながる計画です～

○ この計画は、社会福祉法 107 条に基づく行政計画であるとともに、中区社会福祉協議会地域福祉活動計画と一体化したものととして策定するものです。

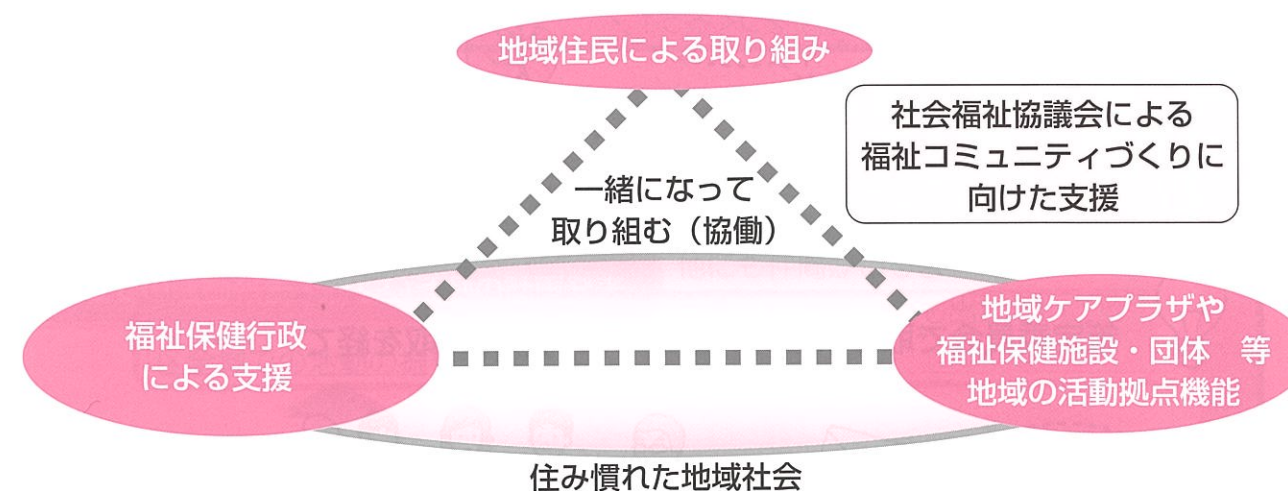
地域福祉保健の推進のためには、地域住民や団体が主体的に取り組んでいる活動や組織を基盤としつつ、新たな課題や住民同士の交流、福祉保健ニーズの発掘や対応のしくみづくりなど、福祉コミュニティの構築が欠かせません。

社会福祉協議会は、この福祉コミュニティづくりの役割を担う機能として位置づけられています。2007年には「団塊の世代」と言われた方たちが定年退職を迎え、一斉に地域に帰ってきます。今回の計画においては、地域活動の担い手として地域に軸足を移したこうした方々を大きな戦力として考えるなど、区行政と一体となって地域話合いや各種団体とネットワークづくりに関わりながら、まさに行政との協働を基本として積み上げてきています。

○ この計画は、地域ケアの拠点機能である、地域ケアプラザ等、地域の福祉保健の諸資源との連携・協働、ネットワークづくりを重視する計画でもあります。

この計画が机上のものに終わらず、様々な地域の活動関係者、関係機関のたゆまない相互理解や連携を通じて、区の福祉保健施策の充実に必要な役割を果たすことを明確に位置づけることが期待されます。

【本計画における各主体の関係】



計画の期間 ～手間ひまかけてつなげていきましょう～

○ 本計画は、平成 18 年度～ 22 年度までの 5 かにわたる計画です。

福祉保健をめぐる状況は大きく変化する一方、中区の住民を取り巻く環境も変化しつつあります。計画に盛り込まれた様々な活動、アイデア、連携・協働のヒントが絶やされることなく続いていくように、5 年間の取り組みを見守っていくこととします。（見守るしくみは、次ページ以降参照）

3 「中なかいいネ！」の作り方 ～みんなで作ります～

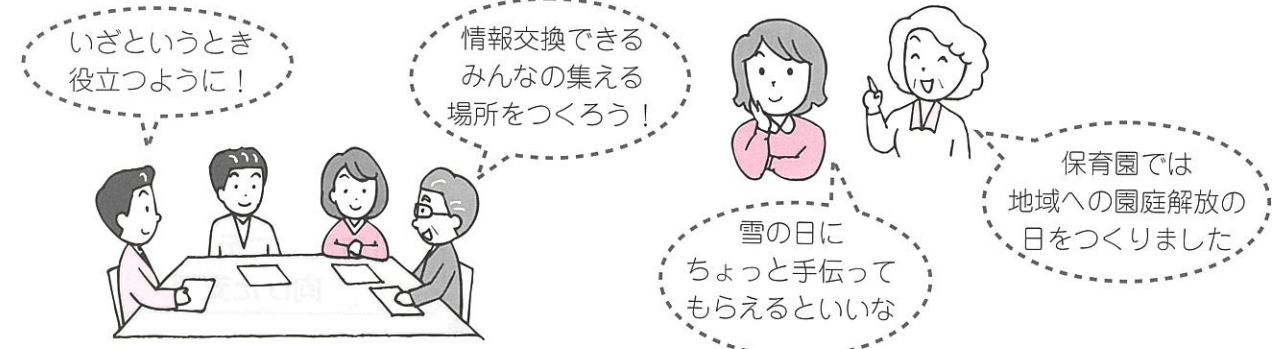
中区では、区全体の計画と合わせて、地域の特性をいかして連合町内会（12地区）と寿地区の地区ごとに計画をたてることにしました。

まずは、それぞれの地区で「地域の課題」を出してみよう
(平成16年度地域話し合い 12地区×2回)



つぎに地域から出された課題を解決するために「みんなでアイデア出し」をしました
(平成17年度地域話し合い 12地区×1回)

福祉保健活動団体の皆さんの意見を合わせました



策定委員会で取りまとめ、区民の公開意見聴取を経て・・・

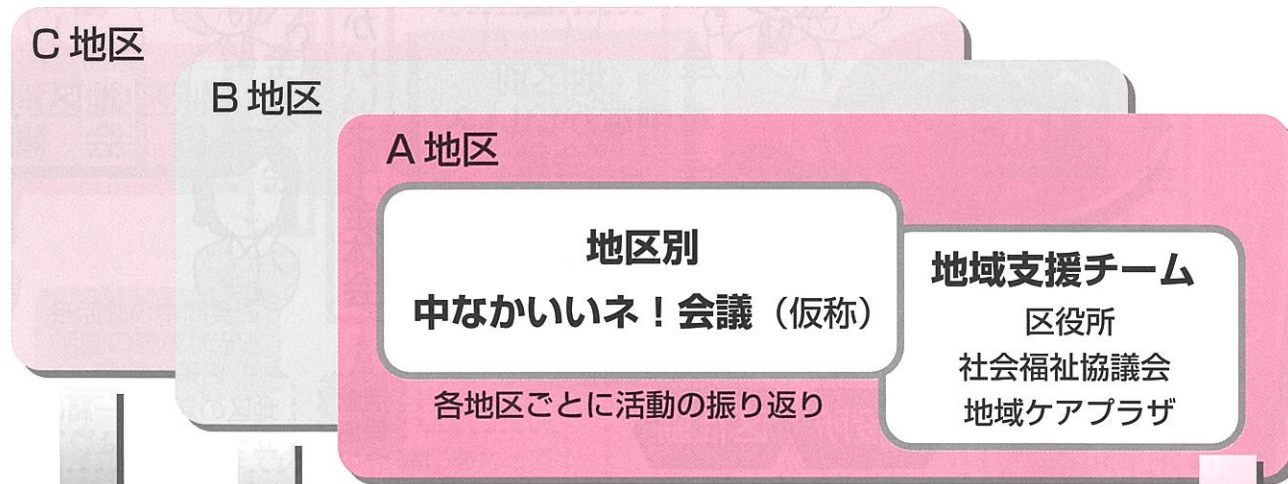
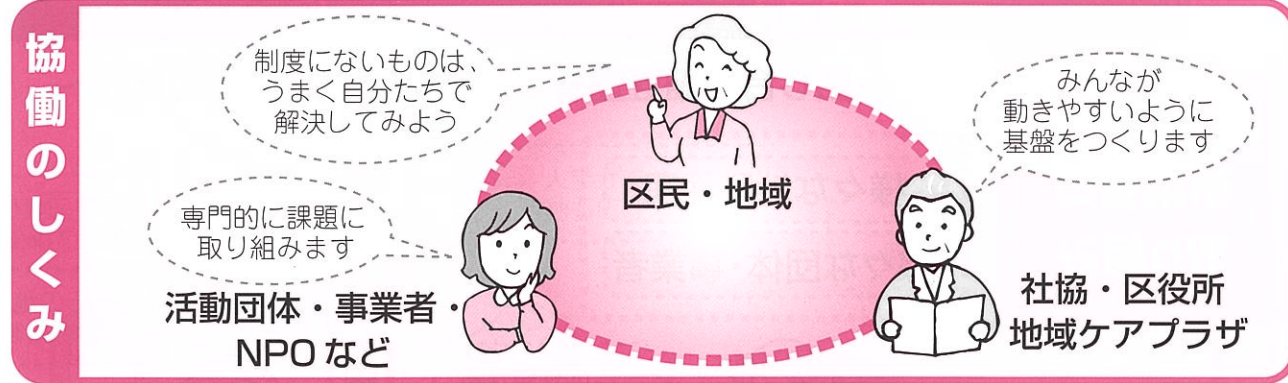


計画へ・・・22年度の見直しまで、実践、振り返りを続けます



4 計画をどのように実施していくか

～推進と支援、振り返り～



中なかいいネ！全体会（仮称）
(年1回開催)
地域での活動報告・新しい活動の計画発表

他の地区の取り組みも見てみよう
どんなやり方でうまくできたのかな？
他にも仲間がいるよ
うまくいかない例も出していこう

区全域での活動の振り返り

中なかいいネ！推進委員会（仮称）
地区計画の実践支援・区計画の進み具合の把握など

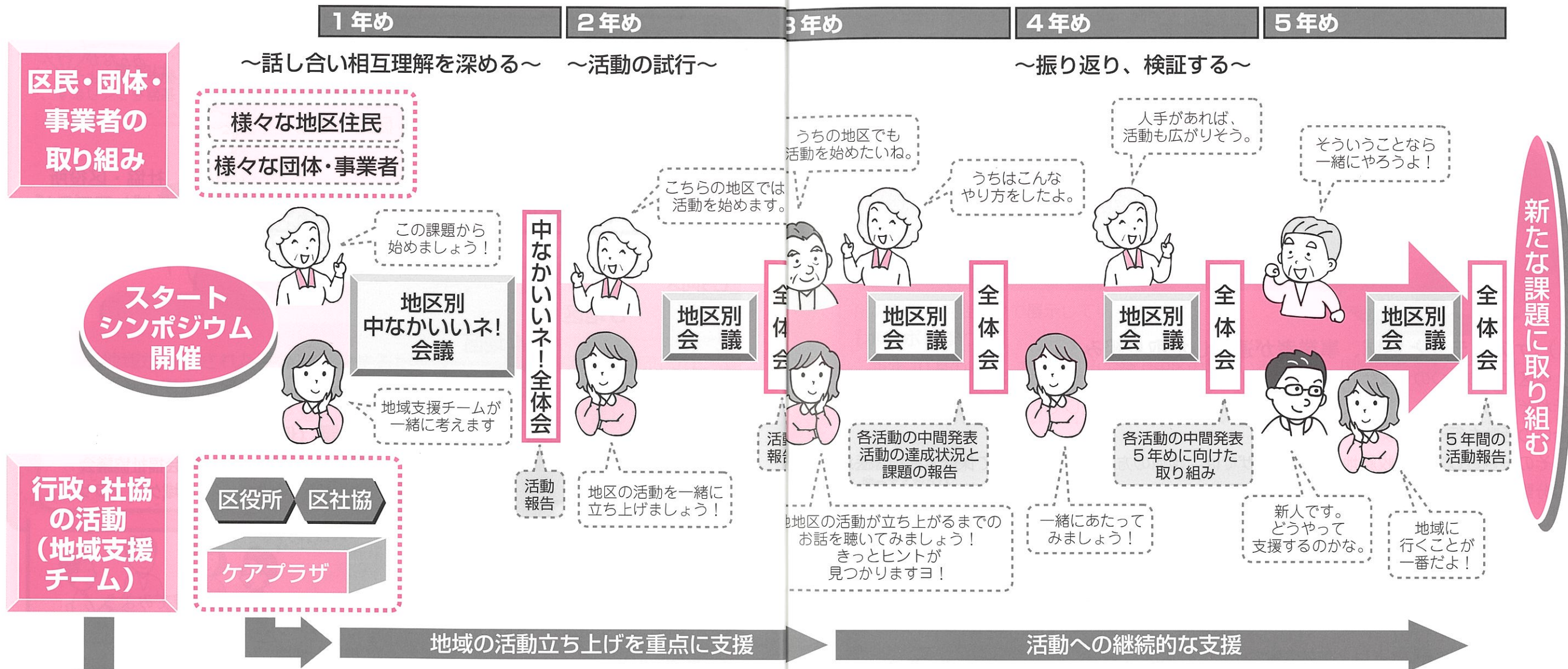
計画の進み具合を把握し、今後の方向性を検討する委員会を開きます。区全体の活動発表会（中なかいいネ！全体会）で計画の振り返りをします。

- 具体的な支援メニュー（例）**
- 活動情報（区内外）の紹介・提供
 - 地区別活動計画の作成支援
 - 人材情報の提供
 - 運営・活動支援
- など

※全体会や推進委員会は、福祉保健課事業企画係が事務局を担当します。

計画の推進に向けて ～有意義な5年間で～

この計画では、地域の取り組みと、行政や社会福祉協議会等関係機関による支援の取り組みとが、常に顔の見える環境の中で検討されることが重要です。



地域支援チームで取り組む主な内容
 ～計画推進イメージを共有化する～

計画推進イメージの共有化

どこで	(地区)
どんなテーマで	(取り組み課題)
どのように	(活動内容)
目標	(活動で得られる成果、イメージ)

各地区にふさわしい支援を検討、実施する

～地域での活動の進め方～

I 取り組むテーマを決めよう

- 地域話し合いの資料を活用しよう
- できるところからはじめよう
- 地域のケアプラザ、区・社協、地域支援チームと一緒に取り組める活動は、協働して進めよう

II 取り組む仲間を集めよう

- このテーマに関してどんな人呼んだらいいか、考えよう
- 同じことを考えている人、すでに活動しているグループなどないだろうか?

取り組むとどうなるのか? 達成目標のイメージを共有しよう (ここが大切!)

- すでに取り組んでいるところの話を聞くのも有効
- スケジュールを立ててみよう
- すぐに取り組めるものもあれば、時間のかかるものもあります
- すぐに効果の出ないものでも、あせらず息長く取り組んでいきましょう

V 活動場所を考えよう

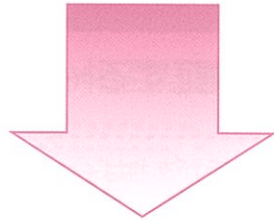
- 保育園、学校、作業所、商店街など、地域にある場所が使いえないだろうか? お互いの活動がわかって一石二鳥!

VI 試行してみよう

- 取り組みの記録を残そう。うまくいった時も、失敗したときも、記録・情報は大切な財産になります。

5 今こんな取り組みをしています

【区内の担い手による様々な活動が行われています】



当事者の皆さんの活動と、地域の皆さんの活動をつなぐことで、実りある協働の成果をあげることができます。こうした活動を参考にしながら、今後各地域や団体で一緒に取り組みを進めていきましょう。

1) ケアプラザと地域、事業者が連携した取り組み

中区にある6つの地域ケアプラザ（新山下、不老町、麦田、簗沢、本牧原、本牧和田）では、それぞれの地域で、まちの人々や関係団体、事業者などが連携して、地域特性を活かした支え合いの活動を行っています。

その一例として、本牧原地域ケアプラザでは、地域の方々をはじめとして保健・福祉・医療の分野で働く事業者などが、「はらっぱ劇団」を結成し、地域の皆さんと一緒に楽しく劇を上演し、分かりやすく情報を発信しています。

「はらっぱ劇団」は、地域の皆さんに、むずかしい制度の内容や理解されにくい高齢者や障がい者の気持ちを、わかりやすく演劇で伝えようと、平成16年10月に結成されました。

これまで6回の公演を行い、平成17年には劇団の合唱部門「はらっぱ合唱団」も結成されました。

また、地域住民の中からも世代を超えて小学生から高齢者まで多数の方が参加してくださっています。今までの劇団参加者総数は150名を超えました。

これからもより多くの方に「はらっぱ劇団」を知っていただき、地域の和を広げていきたいと思っています。あなたも参加してみませんか？



2) 障がい者理解への取り組み

中区では現在、身体・知的・精神障がい者の生活や活動支援のため、機能強化型地域活動ホーム、地域作業所、グループホーム、施設、自主訓練会、当事者団体等、60以上の団体が所属する**中区障害団体連絡会**が組織され、地域生活に重点を置いた活動が展開されています。障がいのある人たちが地域の中で安心して生活するために、行政や中区社会福祉協議会、地域の人たちと一緒にこんな取り組みをしています。

【ポレポレグッズ】

区内の障がい者地域作業所、更生施設等で働く人たちが作った製品をこう呼んでいます。ポレポレとは「ゆっくりやろうよ」という意味のスワヒリ語です。

区役所1階のエレベーター前の展示ケースに、各作業所の製品を月変わりで展示しています。



【ポレポレまつり】

毎年10月の初め、本牧いずみ公園で中区の障がい者団体や、国際交流団体なども加わり、地域の皆さんと一緒にお祭りを楽しんでいます。地元企業の協力もいただいています。

お話を聞くみなさんへ
わたしたちのこと
知ってください
応援してください



【セーフティネットワーク】

知的障がい者などがコミュニケーションをスムーズに行う手段として、「コミュニケーションボード」を身近なコンビニなどに配布します。地域で生活する「個人」として、その人を理解してもらえるような関係作りが望まれます。

【防災マニュアルの作成】

大災害の発生に備え、日ごろからできる対策をまとめた「中区障害者防災マニュアル」を2003年3月に作成し、各施設に配布しました。残る課題も多いので、改定について区と検討していきます。地域の防災訓練により多くの障がい者が参加することが大切です。

【障がい者の社会参加推進】

「テニス発祥の地」として名高い山手公園の市営テニスコートは、公園の管理運営団体である（財）横浜市緑の協会から、**本牧福祉のまちづくり協議会**が委託を受け、中区の4つの障がい者団体（ワークランドPWL、ほっとスペース関内、チャレンジ新生、はだしの邑）が順番でコートの受付業務を行っています。

【精神障がい者への理解】

精神障がいは外からは分かりにくく、理解が得られにくい障がいのひとつです。

精神障がいを持つ方やその家族が安心して暮らせる地域作りをめざし、「病気や障がいへの理解を深め」「必要な地域支援とは何か、を当事者と共に考える」活動が進んでいます。

「中区精神障がい者の地域生活支援を考える会」は、NPO法人ろばと野草の会の呼びかけにより、平成17年6月に活動を開始しました。区内の当事者や家族会、福祉施設（作業所・グループホーム・小規模授産施設など）市民グループ、ボランティア、行政機関が集まり、精神障がい者の「社会参加」や「共に生きる地域」の実現をめざしています。

3) 地域と学校の連携の取り組み

地域話合いの場で、学校との連携について多くの意見が出され、子どもの安全や子育て支援も少子化時代の流れの中で、まちの話題となっていることがわかりました。学校も、地域に向けた活動に工夫を凝らして取り組んでいます。

学校から広がった地域との連携の一例をご紹介します。

【ボランティア大鳥の取り組み】

学校や子どもたちが、地域の人たちと豊かな人間関係を築いていけるように、地域との窓口として、活動をコーディネートしているのが「ボランティア大鳥」です。2001年にPTAや地域協力者などで構成する学校運営協議会の一部門として設立されました。

現在の代表の宮本さんにお話を伺いました。「明るく・楽しく・無理なく」「継続は力」をモットーに、大鳥小学校の児童・保護者、地域の方だけでなく、近隣の学校の児童・保護者とも一緒になって活動されています。

山頂公園のクリーンアップラリーは、清掃活動だけでなくお汁粉を食べたりレクリエーションをしたりして楽しいふれあいの場になっています。



拾ったゴミの量は、前回は150キロほどにもなりました。その他にも視覚障がい者との交流会「ふれあいeye愛」や、読み聞かせの「本読みの会」、校内美化のグループ「陽だまり」の活動も盛んです。地域の人たちも手作りの「ボランティア大鳥NEWS」が町内会に回覧されるのを楽しみにしています。

4) 事業者と行政の連携の取り組み

【中区事業者ネットワーク「かいこのWa!なか」】

平成11年度に、翌年からの介護保険制度への不安と期待の中で、介護サービスを担う様々な業種の事業者や、地域ケア施設の職員が一堂に会し、お互いが連携してサービス提供することの大切さを確認しました。そして、同年12月には中区事業者ネットワーク「かいこのWa!なか」として会が立ち上がりました。

区役所が事業者全体の連携に対する支援を行ってきましたが、平成13年度に登録会員制度となり、自主的な活動として一歩踏み出しました。

ネットワークの中に「在宅看護部会」「訪問介護部会」「ケアマネ部会」を立ち上げ、情報交換や親睦を行うとともに、現場で起きている様々な問題を検討し、全体のスキルアップをはかり、質のよいサービス提供に努めています。全体研修会を行ったり、時には合同部会を開催して連携を深めています。

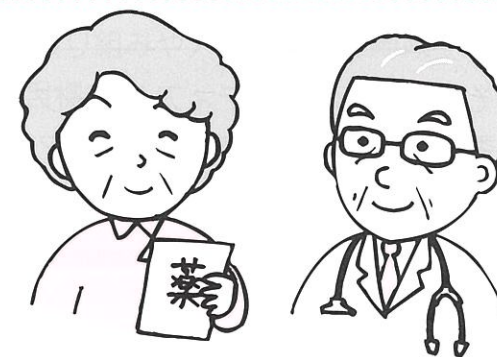
ひとつの事業所ではできない研修も、多くの事業者によって企画できるのもネットワークの力です。

【「かいこのWa!なか」の新たな取り組み】

地域話合いでは、緊急避難した後の要援護者の不安が数多く上げられました。まさに新潟中越地震では、要援護者が避難先で、かかりつけの医療機関や薬のことで大変困ったそうです。

そんな声を受けて、中区事業者ネットワーク「かいこのWa!なか」では平成17年度に災害対策プロジェクトを発足し検討しました。

そして、区内の介護保険サービスを利用しているご家庭に、「緊急時情報カード」を常備することにしました。そのカードには、住所や氏名のほか、担当ケアマネージャー、**緊急避難先、かかりつけの医療機関、止めてはいけない薬**など、避難後にもっとも必要な情報が盛り込まれています。また、カード内容の変更などの管理を担当ケアマネージャーが行うことにしています。もちろん、重要な個人情報ですので、ご本人やご家族の了解を得ることが大前提です。災害時のボランティアチームについての模索も始めています。



5) 子育てへの取り組み

【中区子育て広場 のんびりんこ】

「いつでも誰でも利用できる」「いつ来ても誰かがいる」「子育てを助けてくれる情報がある」を基本コンセプトにつくられました。地元の連合町内会の関係者や主任児童委員、保健活動推進員、ボランティア代表等から構成される「中区子育て広場運営委員会」のもとで、中区の補助金を受け、区民が運営しています。保育ボランティア、障がい児サポートボランティア、主任児童委員、保健活動推進員、公募による個人スタッフなどでローテーションを組み、広場に従事しています。

木のぬくもりが感じられる、清潔で開放感のある部屋です。「家以外のもうひとつののんびりできる場所」に来てください。

利用料：無料

開催日：月～金曜日（年末年始休み）

時間：10:00～16:00

場所：横浜市中区真砂町3-33
関内駅前セルテ9階



【子育てグループ】

区内には約20の子育てグループがあります。お母さんたちが当番を決めて企画をたてるなど、自主的に活動しています。お互いに情報交換したり、悩みを話し合ったり、のんびり過ごしたり、みんなで子どもたちの成長を喜んだり、と子育てグループの活動を楽しんでいます。

活動場所に町内会館や地域ケアプラザを借りたり、婦人会のバザーに参加させてもらうなど、地域の人たちにも支えられています。

その他保育ボランティアグループ「かざぐるまの会」や保育園での「園庭開放」、民生委員・社会福祉協議会・地域ケアプラザなどが開催する「子育てサロン」など、多くの取り組みがされています。

⑤ 関係団体アンケート

～つながるといいネ、いろんなこと～

団体でも、課題解決に向けて様々な活動・取り組みを行っています。
今後は、こうした諸活動とのネットワークを強化し、「つながるとよりいいこと」がかなうよう、働きかけを強めていくことが重要です。

- ◇ 区内の保育園・地域作業所・グループホーム・ボランティア団体などにアンケートを行い、約30団体から返信がありました。
- ◇ 地域話合いで出されたアイデアの中で、「これをやってみたい」「こんなふうに見えるかも」ということをお聞きしました。
- ◇ **アンケートからみえること**
- 「拠点の活用」については、保育所を中心とした交流・情報の受発信などの活動事例やアイデアが多く寄せられました。また「交流・交遊」では、活動拠点を活用したアイデアが多くみられ、「つながるしくみ」を整備することで様々な活動を関係者も一緒になって取り組める方向性が見えてきています。

子どもを作業所に「見においで、遊びにおいで」と誘ってみたい
(地域作業所 えちご家)

園庭開放の時に育児相談にのったり、講座を開いています
(保育園)

- 「啓発活動」「既存の活動」「システムづくり」「セーフティネットワーク」等のテーマからは、既存のしくみや施設内の活動・事業を超えて様々な人材・職種がつなぎ役をしたり、あるいは地域の資源と結び付いたりするアイデアが寄せられています。

障がいのある人がよく買い物に行くお店に、障がいの理解を深めてもらおう
(グループホーム第2オリーブの家)

人が多く集まるイベント会場で「こんなことをしています」とアピールし合おう
(子育て広場 のんびりんこ)

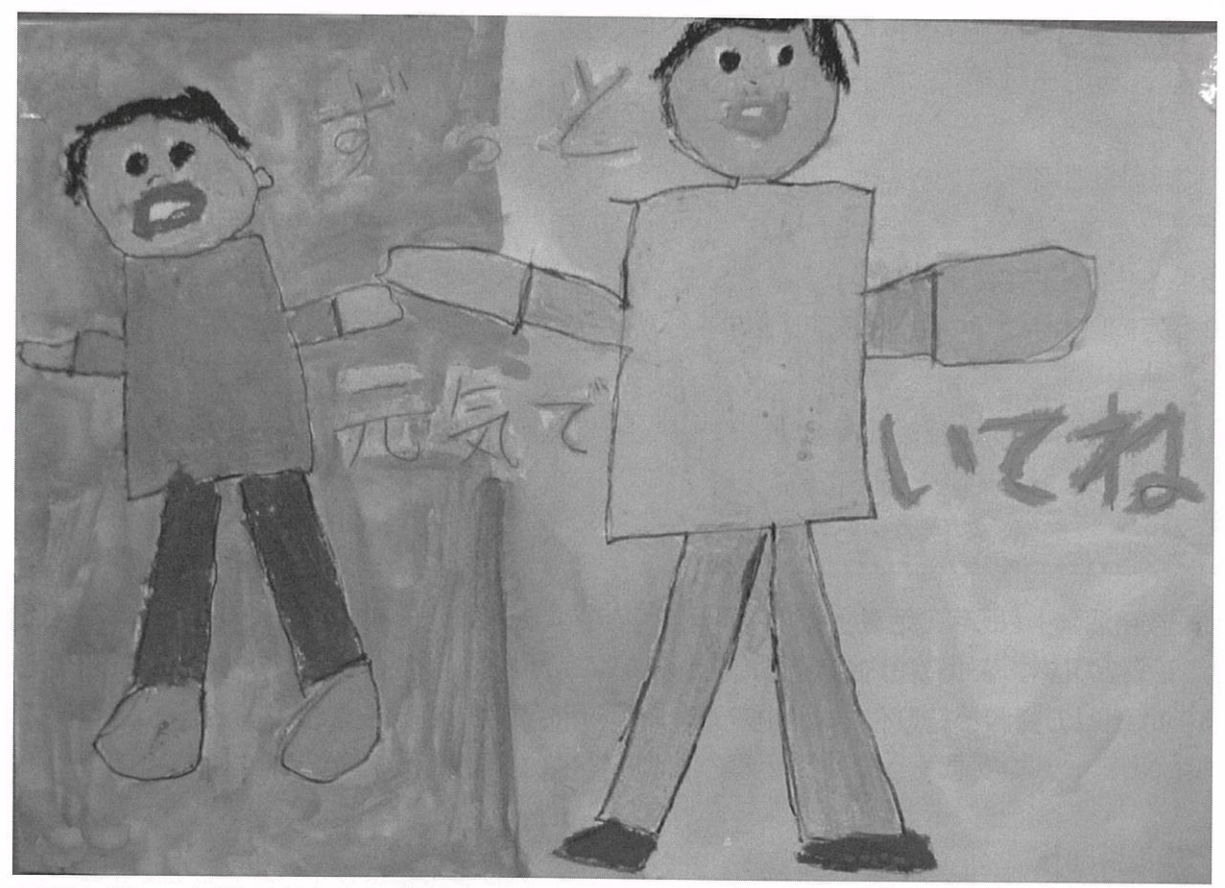
- 回答をお寄せいただいた各種団体・機関の方々の取り組みやアイデアを地域や区全体に活かす機会をつくっていくことも、本計画の重要な目標です。
- 計画作成後は、こうした取り組みやアイデアを地域単位で、あるいは地域を超えてつなぎ合わせる機会づくりが必要です。そのためには様々な関係者が「話し合い」の場を設けて交流する機会をつくるなど、より具体的な活動展開へと発展させていきましょう。

第2章 地区別の計画

この計画をまとめるにあたり、区内各地域で「地域話し合い」を開催し、福祉保健課題やまちづくりに関する様々な課題及び課題解決の方策などを取りまとめてきました。

そのなかで、中区に共通する課題と地域ごとに異なる課題とが明らかになってきました。区に共通する課題については、区行政が主体となって区内全域で取り組むよう、個別施策での対応を強めるほか、中区社会福祉協議会による事業も組み合わせながら課題解決を図っていきます。

地域ごとに解決を図るべき課題については、区民の意見、行政や中区社会福祉協議会などの役割と具体的な取り組みなどを示しています。



元街小4年 大川 翼さんの作品
おばあちゃんがずっと元気であるように願っている思いです。

区全体で解決を図るべき課題 (共通課題)

- 1 地域が一体となるような交流を深めよう。
- 2 地域における子育て支援を進めよう。
- 3 ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯を地域で見守っていこう。
- 4 要援護者も含めた地域の防災体制を作っていこう。
- 5 障がい者への理解と地域参加を進めよう。
- 6 ゴミ出しや分別に困っている人を地域で支えよう。

地域ごとに解決を図るべき課題

- 第1北部地区 (P21)
- 第1地区中部 (P23)
- 関内地区 (P25)
- 埋地地区 (P27)
- 石川打越地区 (P29)
- 第2地区 (P31)
- 第3地区 (P33)
- 第4地区南部 (P35)
- 第4地区北部 (P37)
- 第5地区 (P39)
- 第6地区 (P41)
- 新本牧地区 (P43)
- 寿地区 (P45)

区全体で解決するべき課題

知り合い、出会う大切さを育てよう

【共通課題1】

地域が一体となるような交流を深めよう。

地域話合いのなかで、地域の活動に際してはプライバシー保護の観点から、助けが必要な人が誰なのか、どこに住んでいるのか、何の助けが必要なのか、また、支援してもらいたい人の情報が入ってこないという声が挙がっております。

そこで何世代も中区にお住まいの方や、新築マンションなどに新しくお住まいになった方など、すべての方々が交流を深めるきっかけとして、まず隣近所の人とのあいさつから取り組み、この輪を地域全体に広げていきましょう。

【共通課題2】

地域における子育て支援を進めよう。

子どもに関する意見は「子どもの安全」に関する声と「育児不安の解消」を求め声とがありました。高齢化が進む一方で、核家族世帯が増えている中区では子どもの数も増えています。

(区民の声から) 自治会で子育て支援に協力できればいい。

(区の取り組み) 地域子育て支援拠点の設置と充実や一時保育の実施などを検討していきます。また、「育児不安を抱える養育者支援事業」を充実・拡充していきます。

【共通課題3】

ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯を地域で見守っていこう。

ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯等に対しては、現在、区は民生委員などの関係団体の方々の協力を得て「定期訪問事業」を行っていますが、隣近所の間を深め、きめの細かい見守りができたらという声が出ています。

(区民の声から) ふれあいサロンにもっと出てきてほしい。

(区の取り組み) 効率的な定期訪問事業ができるよう工夫していきます。

住みよい環境をみんなで作ろう

新しい取り組みを生み出そう

【共通課題4】

要援護者も含めた地域の防災体制を作っていこう。

中区では、各学校を地域防災拠点とし、毎年防災訓練を行っていますが、実際に災害が発生した場合非常に不安であり、援護を要する高齢者や障がい児者に対する救護活動や避難場所の確保など解決しなければならない課題がたくさんあります。

(区民の声から) 災害時、車イスや寝たきりの人はどうなるか心配。

(区の取り組み) 関係団体とともに防災マニュアルの改訂について検討するとともに要援護者に対する避難場所を確保します。

【共通課題5】

障がい者への理解と地域参加を進めよう。

この課題は、地区別計画第5地区の計画に挙がっていますが、障がい者の理解と社会参加は他の地区においても同様に意見が出されています。

(区民の声から) 理解を深めるパンフレット等を作り、回覧・掲示したらどうか。

(区の取り組み) 障がい者の理解と地域参加を進めるため、障がい者施設の機能を検討する取り組みを始めています。

【共通課題6】

ゴミ出しや分別に困っている人を地域で支えよう。

高齢世帯や障がい者の方々などがゴミ出しや分別で困っているという声がほとんどの地域から聞かれました。

(区民の声から) 町内会でゴミ出しに困っている人の手伝いをしたい。

(区の取り組み) 分別の仕方の説明会を開くとともに、集積場所の検討もします。

交流のさかなまちづくりをめざそう

第1 北部地区計画

ひとり暮らしだけど、給食会に顔を見せない人がいるね

古くからの商店街があって下町人情がある。本町小学校をまちの拠点としてのつながりがある

子どもたちからの誘いは、行ってみようという気持ちになるよね

こんな話題からまちの課題が見えてきました



課題 A プライバシーの壁はあるけど、地域の交流を広げよう

- 1 高齢者の給食会での子どもとの交流を広げよう。
- 2 あいさつ・声かけで子どもをも見守ろう。
- 3 地域の団体どうしが交流しよう。
- 4 地域の行事を大切に継続しよう。
- 5 健康づくりのサークルから交流を広げよう。
- 6 公園や学校を交流の場に活用しよう。

その他にもこんな課題について、解決の方法・アイデアを話し合いました。

課題 B コミュニティービジネスを生み出そう

- 定年退職した男性が地域で活動するには、やはり仕事の要素がある方が参加しやすい。地域に根ざした活動でビジネスを立ち上げられたらおもしろい。やるのなら、ちょっとした旅行に行けるくらいの収入がほしいけれど、そうなるはずまず地域のニーズを把握するのが第一歩かな。

課題 C 福祉保健相談薬局を広めよう

- 区内には福祉制度や介護の相談にのっている薬局がありますが、まだあまり知られていないのかなと思うことが多いです。ぜひ身近な薬局を活用していただきたいです。

課題 D 老人クラブをもっと楽しいものにしよう

- 老人クラブは仲間がいて楽しいのに、参加している人は全員というわけじゃない。閉じこもりの老人の話が出たけれど、ぜひ仲間に入ってほしいね。そのためには魅力のあるクラブにしないとね。

この地区のケアプラザ



不老町地域ケアプラザ
Tel. 662-0161

こちらにご相談ください
区役所担当 サービス課長
Tel. 224-8160

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 地区センターを利用したサロン等の開催
- 学校の空き教室を利用して、交流の場を考えていきます。
- 薬局を中心とした地域高齢者等の把握を支援

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 交流の場を広げるためのPRのしくみをつくりまします。
- 地域のいろいろなサークル活動の援助をします。【区】
- 高齢者を対象として会食会を実施したり、小学校からの給食の招待に応じ、交流を深めたり安否確認をします。
- 青少年指導員及び体育指導委員とともに地域に呼びかけ日帰りの親子ハイキングを実施し、親睦を深めます。【地区社協】



支えあい連絡会の様子

地域からはこんな意見がありました！

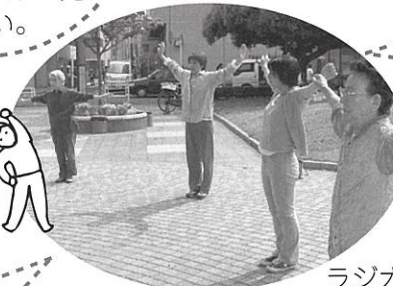


杉江連合町内会長

普段から地域のつながりがあり活動しているが困ってしまっから対応では遅い。小さなことから始めたい。



ホームレスの人や、酔っぱらいの人も多く見かけますが、いろいろな人がいる良さもあり、またそれを吸収していける暖かいまちです。



ラジオ体操

この地区にはまだ古き良き「地域ぐるみのつきあい」が残っています。今日では失われつつある良さを再発見し、利害を超えてみんなで助け合うことで住みやすい地域にできると思います。

今回の地域話合いで、地域のあちこちでラジオ体操をしていることが分かりました。ラジオ体操マップを作って、いつどこで体操しているのかが分かると便利で参加しやすいと思いました。

福祉保健相談薬局って？

区内には福祉保健の気軽な相談窓口になっている薬局があります。服薬相談の他、介護保険や介護用品の相談にもなっています。必要に応じて、区役所や地域ケアプラザへの橋渡しをしています。

コラム

第1地区中部計画

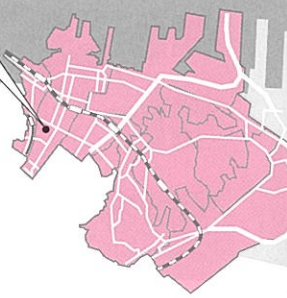
こんな話題からまちの課題が見えてきました

外国の人には
掲示板の内容が
伝わらないね



なんと言っても
ゴミが
一番みたい

繁華街があり、区外・市外からの来街者が多い。町内会については、町内清掃を実施するなど、まとまっている



この地区のケアプラザ



不老町地域ケアプラザ
Tel. 662-0161

こちらにご相談ください
区役所担当 サービス課長
Tel. 224-8160

課題A 地域で情報を伝え合おう

- 1 回覧板以外の伝達方法を工夫しよう。
- 2 商店街など、地域の団体が情報提供に努めよう。
- 3 外国の人にも情報が伝わる工夫をしよう。

こんな話題からまちの課題が見えてきました

ゴミ出しの時に
ちょっとひとこと
話している



ゴミ出しの
マナーが悪くても
注意しにくい

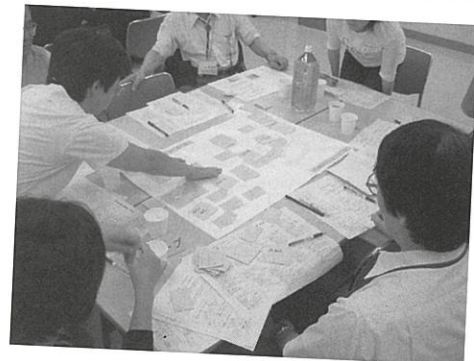
課題B ゴミ出しのマナー向上を通じて、地域のつながりを育もう

- 1 ゴミ出しの問題をきっかけに話し合う機会を持とう。
- 2 お年寄りのゴミ出しに協力できる地域にしよう。

その他にもこんな課題について、解決の方法・アイデアを話し合いました。

課題C 地域で子育てを応援しよう

- 繁華街が通学路になっている。子どもたちが安全に登下校できるかが気になる。
- 学校の先生が地域に出向いて子どもの活動を支援してくれる。その際にお互いの情報交換ができる。
- 子どもは少ないけれど、それだけに子ども同士をつなぐ必要があるし、子どもを大切にしていきたい。



真剣に作業中

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 学校の空き教室を利用して、交流の場の開催
- ゴミ出しに困っている地域の人を知り、どういう支援を行っていったらよいか話し合いの場を持ち、具体的な取り組みを行っていきます。
- 夏休みや冬休みなど長期の休みの時、ケアプラザ内の一部を開放し、場の提供及び学びの提供
- 子育て中の親子の集まることのできる場の提供

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 情報の伝達方法の新しいネットワークをつくれます。
- 外国の人にも分かりやすい情報を提供します。
- 子育て広場「のんびりんこ」の機能を広げ、子育てサロン等とネットワークします。
- 「ふれあい収集」を広げていきます。【区】
- 視覚障がい者と青少年のポーリング大会や親子ハイキングを実施し、地区内の様々な交流を進めます。
- 民生委員児童委員等の活動を支援し、敬老花見の会を実施する等、高齢者との交流を深め安否確認をします。【地区社協】

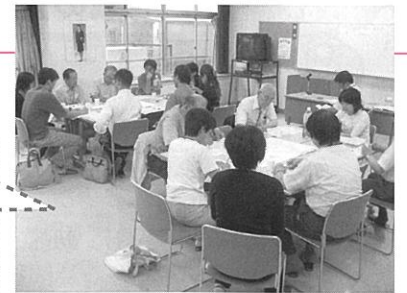
地域からはこんな意見がありました！



平山連合町内会長代行

商店街の
つながりもあ
り、活気もある。
吉田中と地域のか
わりが良い。

町内で危機管理委員会
を設けたが、防犯、交
通などということが
危機管理になるのか、
広報していきたい。



コラム

【吉田中の取り組み】

吉田中学校では、学区の5地域それぞれに全教職員が担当となり、各地域との窓口となっています。そのことにより、祭礼や餅つき大会などのイベント運営や、防災訓練等の地域の活動にも生徒が多数参加し、地域の方々と多く顔見知りになり、関係がより深まっています。また、生徒が総合学習で取り組んでいる「地区への提言」では、自分の住んでいるまちの向上にむけて提言し、地域の代表の方々にも参加していただく発表会を行っています。

関内地区計画

こんな話題からまちの課題が見えてきました

いつでも立ち寄れる場所がほしいね



地域の情報がたくさんの人に伝わる方法を考えたい



官庁街、商店街、会社が混在しているまちで、夜間人口が少ない。公園や活動の場など気楽に集える場所があるといい



課題 A 地域交流の場所を作ろう

- 1 集まれる場所を探そう。
- 2 情報の発信地にして、誰もが集まれる場所にしよう。
- 3 今やっている集まりを活発に続けよう。
- 4 コンビニや喫茶店に地区の情報を置いて情報提供しよう。

その他にもこんな課題について、解決の方法・アイデアを話し合いました。

課題 B 新しく建ったマンションの住民と交流を深めよう

- 今まで商業地だったところにマンションが建って、新しく転入してしてくる人が多い。
- 自治会とマンションの管理組合とが馬車道通りのベンチの管理について話し合って解決した。
- 都心のマンションに引っ越してきたら、地域の情報が分からない。どこへ行ったら町のことが分かるのでしょうか。

課題 C 地域の企業の協力を得よう

- 関内地区にはたくさんの企業があるので、住民と一緒にできることはないでしょうか。
- 定年退職した人が、また関内に活動しに戻って来てくれるような魅力的な活動はできないかな。
- 災害時には、関内に勤める人がみんな帰宅困難になってしまう。企業と地域と連携して災害に備えられないか？

この地区のケアプラザ



不老町地域ケアプラザ
Tel. 662-0161

こちらにご相談ください
区役所担当 サービス課長
Tel. 224-8160

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 関内サロンの支援
- 地域の人達が、一緒に取り組める行事に、マンションの人達等にも声をかけ、一緒に取り組んでいく。

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 「集まれる場」の情報を提供します。
- 情報提供の新しいネットワークを作ります。【区】
- 高齢者を対象としたふれあい健康サロンを実施し、交流を深めたり健康を促進します。
- 自治会・町内会と連携して「関内もちつき大会」を実施し、異世代交流を進めます。

【地区社協】

地域からはこんな意見がありました！



平野連合町内会長

日頃からの地域のつながりをもっと強めたいので、大勢の人が集える地域の交流の場がほしい。

赤ちゃんを連れて参加できる料理やダンス教室があったらいいなあ。



健康サロンなど、高齢者の皆さんのサポートを主に行っていますが、ひとり暮らしの高齢者は意外に多いですね。災害時などにそういう人たちを助けられるように、地域がご近所の「顔を知っている」ことが必要だと思います。

この活動をしていると地域の皆さんから相談を受けることも多く、行政とのパイプ役になればと思います。地域の活動を行政にバックアップしてもらって、10年20年先を考えたシステムをつくりたいと思います。



地区社協・角田さん

埋地地区計画

こんな話題からまちの課題が見えてきました

町内会に入っていない人が多い。災害時に困らないかなあ？



戦後からビル街で交通の便もよい。日枝神社のお祭りをきっかけにして、まちの「気配り」「支え合い」を広げていきたい



アルコール依存症のデイケアスタッフです。共に行動することで近所の人たちとお互いに理解したいです

課題 A 今やっている取り組みを活かして、地域の交流を広げよう

- 1 地域の活動を紹介し合ったり、まとまって一緒に行動しよう。
- 2 防災訓練などを通して、コミュニケーションを深めよう。
- 3 年齢や障がいの有無に関係なく、積極的に活動に誘おう。

こんな話題からまちの課題が見えてきました

外国の人にもゴミ出しのルールなどを伝えたい



ゴ何よりもゴミが効果があるみたい



課題 B 必要な情報がみんなに届けられる仕組みを作ろう

- 1 外国人にも分かりやすい情報を工夫しよう。
- 2 通勤してくる人、マンションの住人にも情報を届けよう。

こんな話題からまちの課題が見えてきました

お三の宮のお祭りにもっと子どもの参加がほしい



子どもはマンションに多く住んでいるね



課題 C 地域ぐるみで子育てをしよう

- 1 地域で子どもの集まれる場を生み出そう。
- 2 子どもたちに行事への参加をうながそう。
- 3 子ども向けの情報を地域で提供しよう。



不老町地域ケアプラザで地域話し合い

この地区のケアプラザ



不老町地域ケアプラザ
Tel. 662 - 0161

こちらにご相談ください
区役所担当 サービス課長
Tel. 224 - 8160

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 埋地地区（寿地区を含む）を知ってもらえるような講座等の開催。
- ケアプラザで開催する事業について、中国語、韓国語、英語等のチラシも作り、配布していきます。
- 不老町地域ケアプラザの一部屋を月2回開放し、交流の場の提供を行っていきます。

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 地域の活動を紹介するためのPRのしくみをつくりまます。
- 運営委員会を通じて、防災訓練のやり方を工夫していきます。【区】
- 富士見中学を中心として生徒と協働の話し合いや近隣区の学校と一緒に交流を深めます。
- 地域住民に呼びかけて研修会を実施し、福祉の啓発を進めます。【地区社協】

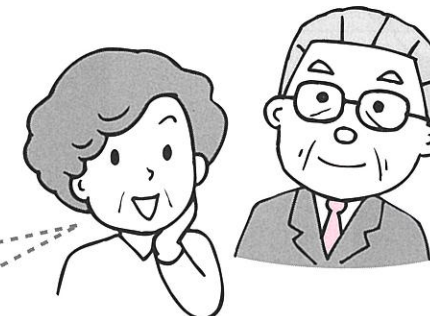
地域からはこんな意見がありました！



増尾連合町内会長

お祭りなどの行事を通じてお互いに知り合うことが、支え合い、助け合いの糸口になるのでは。

中区の中でも「トンネルのこちら」は大きく違う。大きなマンションがまとまって町内会に入らなかったり、行事に誘っても断られたり。古くから住んでいる人以外のことは分からない。



歩こう会や、クリーンキャンペーンなど活発な地域の活動があります。

隣接する寿地区との関わりも引き続き考えていきたい。

石川打越地区計画

古くからの商店街があっ
て下町人情がある



こんな話題からまちの
課題が見えてきました

ゴミ収集場所の
変更をみんなで
話し合った



駅が近いからか、
通りすがりの人が
ゴミを捨ててしまう

課題 A ゴミ出しをきっかけに地域のコミュニケーションを深めよう

- 1 ゴミを出しにくい人のゴミを助け合って出そう。
- 2 ルールを伝えるために情報伝達を工夫しよう。
- 3 収集所の見守りついでに、町も見守ろう。

こんな話題からまちの
課題が見えてきました

やっぱり健康が
大切だね！



自宅できる
体操を知りたい

課題 B いつまでも元気で過ごしたい

- 1 健康のための運動・体操をしよう。
- 2 健康を保つ食事をとろう。
- 3 元気に外出しよう。脳を活性化！

こんな話題からまちの
課題が見えてきました

あんしん電話って、
知ってた？



高齢の方で、
一日中家の中にいる方が
外にでられるといい

課題 C ひとり暮らしのお年寄りにも、暮らしやすいまちをつくらう

- 1 緊急時のネットワークを作ろう。
- 2 プライバシーを守りつつ、安否を見守ろう。
- 3 気軽に出かけられる仲間・場所を作ろう。



大勢の人が集まって地域話し合い（諏訪神社）

この地区のケアプラザ



不老町地域ケアプラザ
Tel. 662 - 0161

こちらにご相談ください
区役所担当 サービス課長
Tel. 224 - 8160

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 現在行っているゴミ出しの取り組みをまとめ、他の地区での取り組みの1つの参考としていきます。
- サロンや給食会において、健康についての情報を提供していきます。
- 引き続き、石打サロンへの支援を行っていきます。

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- ふれあい収集の活動をすすめます。
- 健康体操などの活動を支援します。
- 新しい情報を分かりやすく伝えます。【区】
- 高齢者を対象に会食会やサロンを実施し、交流を深めたり安否確認をしながら活動を充実させます。
- 様々なレクリエーションを企画し親子交流を進めたり、子育てグループ（元気の出る会）の活動を支援します。【地区社協】

地域からはこんな意見がありました！



有波連合町内会長

昔から住んで
いる人も多く、
下町人情もあるので
みんなで小さなことでも
助け合う輪を広
げたい。



夜、鍵がかかる公園がある。老人会で見守りして子どもが安心して遊べるといいね。

町内の役員をしていますが、年齢が高くなると共にいろいろな行事の手助けが負担になってきます。若い世代の参加を募りたいです。

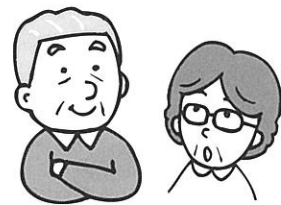


石川打越の給食会には大勢参加します

第2地区計画

こんな話題からまちの課題が見えてきました

運河で釣りができないかな



観光地や魅力ある商業地で、たくさんの方が訪れるまち。町内会の活動がしっかりしている。



「公園の芝がかわいそう」と声を掛けたら、たくさん人が集まった!

課題 A 地域の特色を活かしたまちづくりをしよう

- 1 運河を利用してイベントを企画してみよう。
- 2 長く続いている地域の活動をさらに広げよう。
- 3 山下公園の芝生ボランティア活動を続けよう。

こんな話題からまちの課題が見えてきました

敬老祝い金の贈呈が毎年でなくなったら、お年寄りがどこにいるのかわからなくなった



見守りの訪問は続けてほしい

課題 B プライバシーに配慮しながら、地域のつながりを強めよう

- 1 見守りが必要な人に異変があったら、必要なところに連絡できる仕組みを作ろう。
- 2 マンションの管理組合と自治会とが話し合う場を作ろう。
- 3 プライバシーを守る一方で、必要な情報を把握する仕組みを作ろう。
- 4 ちょっとした見守りを続けよう。
- 5 男性が地域の活動に参加しやすくしよう。

その他にもこんな課題について、解決の方法・アイデアを話し合いました。

課題 C 地域で防災に関心を持とう

- 町内会、中学校、中華料理店、病院、ホテル、幼稚園、保育園等も一緒に防災訓練をしている。障がいがある人も一緒に防災訓練できないか。

課題 D 世代間交流をすすめよう

- 子どもの行事を通じて、自分たちの住んでいるまちへの関心を高めていきたい。

この地区のケアプラザ



新山下地域ケアプラザ
Tel. 625 - 1911

こちらにご相談ください
区役所 福祉保健課長
Tel. 224 - 8150

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 地域内での出張講座やイベントの企画実施
- 地域活動の協力・支援
- ボランティア活動の支援
- 地域支えあいネットワークの設置
- 在宅介護支援センター（地域包括支援センター）による福祉の相談窓口の設置
- 特別避難場所の設置
- 異世代間交流を目的とした事業の実施
- 通所介護利用者と地域内の学校（児童）との交流
- イベントやボランティア活動を行うための援助をします。
- 男性が地域の活動に参加しやすくなるようなきっかけづくりをします。

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 子育てサークルに支援をします。
- 効果的な防災訓練を企画します。
- 新しいイベントへの支援をします。【区】
- 高齢者を対象に会食会やデイケア、サロンを実施し、交流を深めたり安否確認をします。
- 地区社協発行の新聞を全戸配布し、持ちつき大会や子育てラビットの会を紹介する等、福祉の啓発をします。【地区社協】

地域からはこんな意見がありました!



高橋連合町内会長

大変まとまりのある活動のさかんなまちです。みなとみらい線の開通でまちの様子も変わってきました。

子育てグループの会が次世代育成に役立っている。



公園で育児相談にのりながら子どもの見守りをしたい。

【横浜保育室・保育園小紅】

祭りやもちつき大会で他地区との交流が増えてきた。



第3地区計画

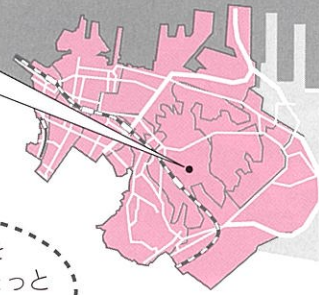
こんな話題からまちの課題が見えてきました

障がいの有無に関わらず地域で平等に暮らせるといいね



精神障がいを持った家族をちょっと見ていてくれる場所がほしい

緑が多く、自然に囲まれていて昔風のよいところが残っているが、坂が多く道も狭い。交通の便がよくなるといい

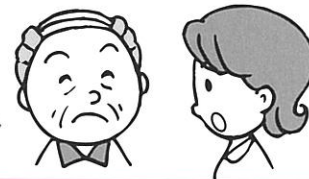


課題 A 地域のつながりを活かした地域の見守り

- 1 障がいのある人への理解を深める取り組みをすすめよう。
- 2 身近な交流の場所を作ろう。
- 3 異世代間の交流を深めよう。
- 4 小さな単位で見守り隊を作ろう。
- 5 地域で助け合える、気兼ねのない「おたすけクラブ」を作ろう。

こんな話題からまちの課題が見えてきました

字だけの情報は読む気になれないよ



パソコンをもっと利用したらどうだろうか

課題 B 分かりやすい福祉情報の提供

- 1 対象に合わせた情報内容を工夫しよう。
- 2 得意分野を活かして情報提供の方法を考えよう。
- 3 今ある組織を上手に利用して情報を伝えよう。

こんな話題からまちの課題が見えてきました

坂を登っているからみんな元気だ!



ベビーカーで坂を上ったら途中から階段になっててショック~

課題 C 坂道を活かしてまちづくり

- 1 坂道散歩コースを作って健康増進。
- 2 歩きやすい坂道にしよう。

その他にもこんな課題について、解決の方法・アイデアを話し合いました。

課題 D 災害時の避難場所を身近に作りたい

- 避難場所が遠いので町内会で交渉して、近くの私立中学に一時避難場所になってもらった。

この地区のケアプラザ



麦田地域ケアプラザ
Tel. 664 - 6023

こちらにご相談ください
区役所 サービス課担当課長
Tel. 224 - 8170

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- ケアプラザはもっと地域に開かれた「なじみの場所」になっていきます。子どもから高齢者まで様々な人が集える事業を実施して、「持ちつ持たれつ」の地域で支えあう関係をつくります。
- 身近な相談場所として、高齢者に限らず幅広く福祉保健に関する相談をうけたまわります。地域の集まりで介護保険について紙芝居で説明させていただきました。
- 「山坂のある生活」へのたいへんさを「たのしさ」や「長所」に変えられるような取り組みを、地域の人たちとの交流をとおして一緒に考えていきます。

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 福祉保健相談薬局に情報ボックスを設置し、分かりやすい情報提供を工夫します。
- 小さな助け合い活動を援助します。【区】
- ひとり暮らし高齢者を対象とした給食会やサロンを実施し、交流を深めたり健康や安否の確認をします。
- 高齢者と視覚障がい児者との交流会や子育てサロン等を実施し、地域の様々な課題の解決をめざします。【地区社協】

地域からはこんな意見がありました!

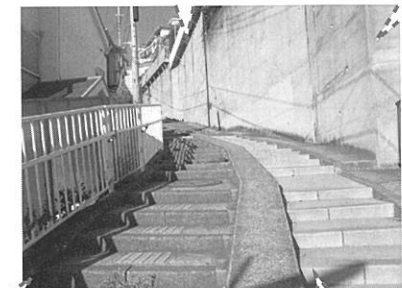


田村連合町内会長

観光ゾーンと閑静なまちが隣接しています。緑と自然をどうやって活かしていくかみんなで考える機会を大切にしていきたいですね。

坂道マップを作ろう「この坂を上ったら30カロリー消費」って分かったら面白いね。

バギーでの外出は大変!



地域話合いに元街小の子どもたちも参加し、意見を発表しました。

災害の時もおんぶ紐は役立つよ。

それなら、かっこいいおんぶ紐があるといいね。【子育て支援者】

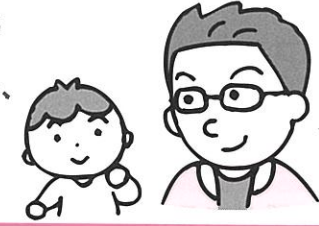
第4地区南部計画

こんな話題からまちの課題が見えてきました

お年寄りも子どももたくさんいる公園がいいな

女性が頑張っているまち。山頂公園のゴミ拾いなどボランティア活動も盛んなまち

災害時にみんなで助け合いたい



課題 A 赤ちゃんから高齢者まで地域の世代間交流を活発にしよう

- 1 まちの人が気軽に立ち寄れる場所を作ろう。
- 2 町内会組織に「赤ちゃん部」を作ろう。子育てサークルを、その後も地域参加できる形で継続しよう。
- 3 まちの高齢者を呼んで、地域の伝統の話や技を披露してもらおう。
- 4 町内会のイベントを、誰もがもっと参加しやすいものに工夫しよう。
- 5 学校と、地域にある施設が交流の機会を持とう。

こんな話題からまちの課題が見えてきました

ひとり暮らしで何かあったら困る

自分でやりたいという人の気持ちも尊重したい



課題 B 高齢者を地域で見守るには、まず情報の把握からだが・・・

- 1 その人をよく知る人に民生委員の協力員になってもらい、日常の見守りをしよう。
- 2 民生委員、行政、地域ケアプラザが連携して見守りをしていこう。
- 3 見守る関係者に間で、どこまで情報を共有していいかのガイドラインが必要。
- 4 見守り訪問するきっかけとして活用できるものはないだろうか。

こんな話題からまちの課題が見えてきました

知らない子どもに声を掛けるのは戸惑う

登下校時の安全が気になる



課題 C 子どもの安全を考えよう

- 1 子どもに声をかけ続けていこう。「あいさつしない」と嘆くのではなく。
- 2 町内会、学校、警察と連携した取り組みをしていこう。
- 3 学校からの情報を地域で共有しよう。

その他にもこんな課題について、解決の方法・アイデアを話し合いました。

課題 D ゴミの分別を進めるために、地域でできる方法を考えよう

- ゴミ出しの時間などマナーが守られていない。お互いにゴミ出しの時に声を掛け合っている。
- 生ゴミを堆肥にしているが、それを活用する場所がほしい。

この地区のケアプラザ



本牧原地域ケアプラザ
Tel. 623 - 0971

こちらにご相談ください
区役所担当 保護課長
Tel. 224 - 8280

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 「はらっぱ劇団」の公演で、むずかしい情報をわかりやすく伝えます。地域の人や学校、事業者と一緒に活動しています。
- 町内会のイベントなどを、ケアプラザの掲示板や事業でPRできるよ（情報発信への協力）
- 関係機関と連携し、高齢者の見守りネットワークを作りたい。その前段階として、事業者同士の顔の見える関係作りをしています。

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 充実した見守り訪問のしくみを工夫します。
- 世代間交流のきっかけづくりを支援します。【区】
- 一人暮らし高齢者を対象とした食事会やデイサービス・サロンを実施し、交流を深めたり安否確認をします。
- 大鳥小学校といっしょに、地区運動会や地域ふれあい餅つき大会を実施し、異世代交流を進めます。【地区社協】

地域からはこんな意見がありました！



小林連合町内会長

集合住宅ができて雰囲気が変わってきているがみんなであいさつができて、笑顔であいさつができるまちです。



子どものいない家庭にも、学校からの情報が入ると、地域で子どもを見守ることができるよね。

大鳥小学校のおおとりボランティアから町内会にニュースが届くよ。

18年度から「健康づくり体操教室」の輪をさらに広げていきます。
【健康づくり体操教室代表・岩村さん】

商店街の人から子どもに声をかけてもらえるまち。地域のお年寄りが、まちに立って見ていてくれるだけで、子どもの安全には効果があるのよね。

町内会に「赤ちゃん部」があるといいね。

高齢者の見守りも課題だね。高齢者に対する犯罪も増えているし、心配だね。民生委員だって家に入れてもらえないこともある。



はらっぱ劇団でお年寄りが詐欺の被害にあわないように、劇で見せてくれたよ。

第4地区北部計画

町内会の組織がしっかりしているので、住民のほとんどがわかり、緊急時に連絡できるよう連絡先を教え合っている。ただし、高齢化が進み、子どもが少ない

子どもが遊べる場所が少ない



引っ越してきた人もとけ込みやすい町になってほしい

こんな話題からまちの課題が見えてきました

課題 A みんなの居場所を作って地域交流をすすめよう

- 1 空いている家や公園を活用して居場所を作ろう。
- 2 お年寄りだけでなく、子どもも大人も集まれる場を作ろう。
- 3 体操、趣味、公園の手入れなどの活動を通じて集まろう。
- 4 今やっている活動どうして交流を始めよう。

昼間家にいないので、あまりおつきあいはない



みんなで運動していると長生きできそう！



こんな話題からまちの課題が見えてきました

課題 B 地域の活動に参加しよう

- 1 町内会の役割、仕組みをみんなに知らせよう。
- 2 マンションに越してきた人たちを、積極的に活動に誘おう。
- 3 若い人、男性などが地域の活動に参加できるよう工夫しよう。
- 4 活動のきっかけになるようなイベントを企画しよう。

その他にもこんな課題について、解決の方法・アイデアを話し合いました。

課題 C みんなでひとり暮らし高齢者の見守りをしよう

- 見かけないと、どうしてるのかなと思う。雨戸が開いているか、電気はついたかと気にしている。何かあったらどこに相談しようかなと心配している。昼間ひとり暮らしの人に何かあってもうまく家族に連絡が取れるかな？



みんなでアイデア出し(北方老人憩いの家)

この地区のケアプラザ



新山下ケアプラザ
Tel. 625 - 1911

こちらにご相談ください
区役所担当 福祉保健課長
Tel. 224 - 8150

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 各種団体への活動場所の提供
- 親子のフリースペース「おひさま」の実施
- 地域住民対象の各種講座や研修会など実施
- ボランティア活動の支援
- 地域内での出張講座やイベントの企画実施
- 地域活動の協力・支援
- 在宅介護支援センター（地域包括支援センター）による福祉の相談窓口の利用

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 空いている店舗の情報を提供します。
- 若い人、男性など地域活動に参加しやすくなるようなきっかけづくりをします。【区】
- 高齢者を対象とした会食会やサロンを実施し、交流を深めたり安否確認をします。
- グランドゴルフ大会や町内会大運動会を実施し、健康づくりや異世代の交流を進めます。

【地区社協】

地域からはこんな意見がありました！



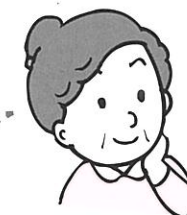
山田連合町内会長

少子高齢化の進んでいるまち。いろいろな活動が活発になるといいと思う。まず、大鳥小に加え、18年度から北方小の子どもの見守りを町内会で拡大したい。

町内会では買い物の手伝いや病院等への送迎などちょっとした高齢同士の助け合いをやっていきます。さらにその輪を広げたい。



緊急時に連絡がとれるよう連絡先を教え合っています。



いつでもだれでも気軽に来て、お茶を飲めたりする場所があるといいなあ。

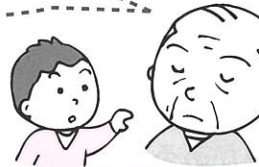
第5地区計画

祭りなどを通じてまとまりも強く、町内会加入率も高い

脳梗塞で右麻痺になりました。頼りにしている妻が倒れたらどうしたらよいでしょう

障がいがあっても、まちの人たちと一緒にできるといいな

こんな話題からまちの課題が見えてきました

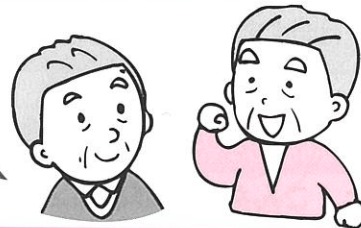


課題 A 障がい者への理解と地域参加を進めよう

- 1 障がい者に対する地域のネットワークを作ろう。
- 2 障がいではなく、その人個人個人を知ってもらい取り組みを進めよう。
- 3 障がいを持つ人も町内のイベントに参加し、コミュニケーションをとろう。
- 4 理解・啓発の活動を進め、相談窓口を周知しよう。

ひとり暮らしの高齢者など、ゴミ出しで困っているね

こんな話題からまちの課題が見えてきました



間門小では、子どもが高齢者のお手伝いをしているよ

課題 B 高齢者のゴミ出しを支える活動を通じて、高齢者と子どもの交流を深めよう

- 1 高齢者と子どもが集まる広場を作ろう。
- 2 間門小のふれあい収集の取り組みを地域で広げていこう。子供会などでも取り組もう。

ケアプラザが地域の溜まり場になるといいね

こんな話題からまちの課題が見えてきました



ケアプラザのコーディネーターに期待!

課題 C みんなの交流をすすめるための情報を集めよう

- 1 ケアプラザを地域交流のキーステーションにしよう。様々なグループが掲示板を利用して情報を集めつながろう。
- 2 PRを兼ねてケアプラザが地域に出向いて組織を支援しよう。
- 3 ケアプラザが地域が動き出すサポートをしよう。マンションなどのコミュニティ作りには行政も介入しよう。
- 4 民生委員、保健師など情報を持っている人と地域のキーパーソンをつなごう。

この地区のケアプラザ



本牧原地域ケアプラザ
Tel. 623-0971



本牧和田ケアプラザ
Tel. 622-1211

こちらにご相談ください
区役所担当 保護課長
Tel. 224-8280

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 本牧原ケアプラザでは、地域交流の事業や講座で、障がいに対する理解・啓発活動をしています。
- 「暮らしのサポーター」がボランティアで高齢者のゴミ出し等をお手伝いしています。
- 脳イキキ教室の講座を終了した人が、保育園等で読み聞かせボランティアとして活動中。

- 本牧和田地域ケアプラザでは、地域支えあい活動の一環として、民生委員、資源循環局中事務所と共に、間門小、本牧中の児童生徒の協力を得て、地域の高齢者世帯、障がい者の方などお手伝いが必要な方々にゴミや古紙の回収のお手伝いをすすめる活動をしています。
- また、障がいの理解を深めるための講座を企画していきます。地域で様々な活動をしている団体、グループの方々、地域ケアプラザにも声をかけてください。ケアプラザの情報ラウンジを地域の方々が有効活用できるよう工夫していきます。

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 福祉保健相談薬局などに情報ボックスを設置します。
- 障がい理解に関する講演会、障がい当事者の生活支援、親の会の支援、交流会の支援等を行っています。【区】
- 一人暮らし高齢者を対象に食事会や日帰りバス旅行を実施し、交流を深めたり安否確認をします。
- 民生委員児童委員会と合同で研修会を開催し、福祉の啓発を図り、地域の課題解決をめざします。【地区社協】

地域からはこんな意見がありました!



岩村連合町内会長

本牧・根岸の臨海地区なので、地域住民と港湾企業との連携が特に必要と思っています。



退職した人が活動できる場所があるといいのにね。

防災マップを自治会・町内会で作ろうとしたことがありましたが、逆にひとり暮らしのお年寄りの居場所をアピールすることになりかねず、途中で断念しました。

個人情報との兼ね合いが難しい!うまくいっているところの情報がほしいなあ。

第6地区計画

こんな話題からまちの課題が見えてきました

森林公園はこの地区の大事な拠点だよ



森林公園など緑が多く、地域ぐるみであいさつ運動を実施している。気軽にお助けマンとして高齢者世帯に行けないか

きれいな自慢できる公園がいいよね



課題 A 森林公園の利用マナーの改善について考え、地域の交流に役立てよう

- 1 犬の散歩などのマナーを守ってもらうため、地域住民で看板を作ったり、公園管理者と話し合って取り組みをすすめよう。
- 2 看板以外に、マナーやルールを公園利用者に伝える方法を考えよう。
- 3 地域住民と、犬の飼い主と一緒に取り組めることを考えよう。

こんな話題からまちの課題が見えてきました

山元小では、地域の人や黄色い腕章をつけて子どもを見守る活動をしているよ



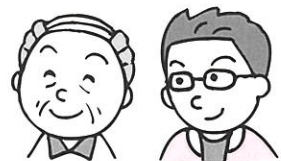
放課後の「はまっこふれあいスクール」の安全対策はどうなっているんだろう？

課題 B 地域で子どもを見守ろう。特に放課後の子どもの安全を守ろう

- 1 地域住民で校内を見廻ったり、下校時に見守る体制を作ろう。
- 2 山元小児童との「ふれあい給食」を地域の人との交流の場にしよう。
- 3 はまっこふれあいスクールでも防災対策・訓練をしよう。

こんな話題からまちの課題が見えてきました

親父の会なんてあると気楽に集まれるよね



昔のまちのことなど、若い人や子どもたちに教えてくれる機会をきっかけにできないかな

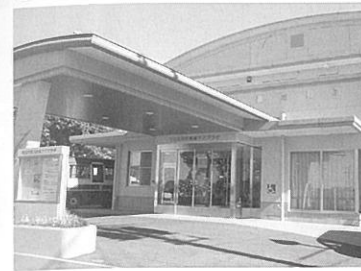
課題 C 地域活動にいつもと違う人を引っ張りだそう

- 1 男性が参加しやすい方法、興味のあるものは何かを考え、取り組もう。
- 2 若い世代が参加しやすくなるための方法は何かを考え、取り組もう。
- 3 活動のPRの仕方を考えよう。



地域の拠点・山元小コミュニティハウスで地域話し合い

この地区のケアプラザ



養沢ケアプラザ
Tel. 663 - 6960

こちらにご相談ください
区役所担当 生活衛生課長
Tel. 224 - 8337

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 定年退職後の人生をいかに過ごすか、特に男性を対象に「シニアライフを楽しもう」の企画がスタートしました。健康で楽しく過ごすことを目標に、趣味、地域社会についても語り合い、充実した仲間づくりの時間を過ごしましょう。

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 新しい交流の場に対する支援をします。
地域の活動を紹介するためのPRのしくみをつくります。【区】
- 高齢者を対象に交通安全指導や防火についての研修をしたり、小学生とのふれあい給食会で交流をします。
- 子育て支援事業の一環として山元小学校教諭を講師に招いたり、地域でできる具体策を考えます。【地区社協】

地域からはこんな意見がありました！

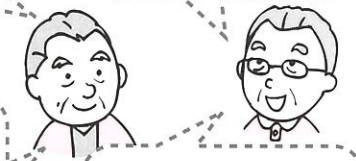


山村連合町内会長

地域は広いが、民生委員さんなどが良く活動している。まちの結束を活かしたい。

森林公園で、犬の飼い主グループがマナーボランティアになれば一石二鳥だね。

男性は仲間作りが苦手かも。男の集まりがあるといいよね。



男性が地域活動に出るには奥さんのお尻を押すのが一番！

山元小の畑には、畑ボランティアが活躍しています。読んで楽しい手作りの「はたけ新聞」も発行してま〜す。できた作物は、地域の方と一緒に収穫祭で楽しめます。



山元小畑ボランティアの活躍の一コマ

コラム

学校や自治会、商店街とも協力し、地域ぐるみであいさつ運動を展開しています。ケアプラザの支え合い連絡会として、「あいさつ運動実施中」のステッカーを作り、町内会の回覧や掲示板に貼ったり、学校や関係団体にも配布しています。

地域で顔の見える関係づくりが進み、子どもの安全を含めた地域の防犯や防災にも役立つといいですね。

【養沢地域ケアプラザ】

新本牧地区計画

こんな話題からまちの課題が見えてきました

ガイドボランティアをしています。車いす使用時の地図がほしいです



昔から住んでいる人と新しい住民がよい意味で混ざっている。緑が多く、文化施設もあり、大切にしていきたい

保育ボランティアをして、自分が元気をもらっています



課題 A ボランティアを育成し、連携する取り組み考えよう

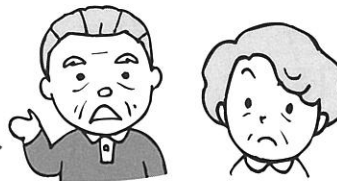
- 1 退職前の人を、得意分野を活かした地域活動に誘おう。
- 2 まだ地域につながっていない女性にアプローチする取り組みをしよう。
- 3 ボランティア活動を、退職した男性の生き甲斐対策につなげよう。
- 4 児童期によりボランティア体験ができるようにしよう。
- 5 活動の支援・アドバイザーとして、ボランティアコーディネーターを活用しよう。

その他にも、平成16年度の地域話合いでは、地域の課題としてこんなことが話し合われました。

課題 B 障がいの特性を理解し合い、認め合えるまちにずっと住み続けたい

- 「障がいを持った子供にも、周りの方が理解をもって接してくれているので、とても助かっています。子供が大きくなっていくにしたがって問題は出てくると思いますが、そのときには周りの方に手助けしていただくことが増えてくると思います。」
- 「障がいを持つ人もみんな仕事について、地域に役に立てるようになるといいと思います。」

マンションの住民名簿を作ろうとしたが、ことわられてしまった



いざという時に助けあえる関係をもちたいものです

課題 C マンションが多くなったが、プライバシーを重視するあまり災害時・防災面での不安もある

- 「私もマンションに住んでいますが、お年寄りのひとり暮らしの方もいらっしゃいます。電球の取り替えなど困ったときに、気軽に声を掛けてくれればいいなあと思います。いざという時にも、ふだんのつながりが役立つと思います。」

この地区のケアプラザ



本牧原地域ケアプラザ
Tel. 623 - 0971



本牧和田地域ケアプラザ
Tel. 622 - 1211

こちらにご相談ください
区役所 保護担当課長
Tel. 224 - 8240

ケアプラザの取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

本牧原ケアプラザでは

- 趣味を生かした講座から、ボランティアに誘おう（例：料理教室、体操教室など）
- 学校の福祉体験受け入れ
- 車いす体験
- 親子のお菓子づくり教室の後、子どもたちと高齢者の交流会をしています。

区役所・社会福祉協議会の取り組み

こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- ボランティア活動が退職した男性の生き甲斐となるようなきっかけづくりをします。【区】

地域からはこんな意見がありました！



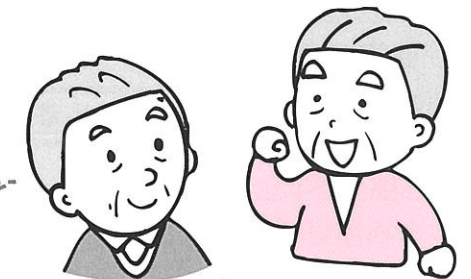
篠塚連合町内会長

マンションの多い地域だけど、ハード面のバリアフリーもちろん、心のバリアフリーを目指したまちにしたいですね。

困ったときに必要な情報が得られる地域であってほしい。

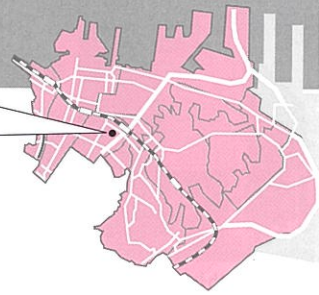
お互いに困ったときに助けあえるよう声をかけあえる関係づくりができるまちになってほしい。

障がいのあるなしにかかわらず皆が認めあう住みやすいまちになってほしい。



寿地区計画

寿地区とは、昭和30年以降に作られた簡易宿泊所が密集する日雇い労働者のまちです。現在では高齢化が進み、景気の低迷により生活保護を受給する人が増加し、労働者のまちから「福祉のまち」へ変貌をとげています



ほとんどが男性です

高齢化率はたいへん高い



こんな話題からまちの課題が見えてきました

課題 A

高齢者がいろいろな福祉サービスをもっと受けられるようにしましょう

- 1 デイサービスを利用してもらい、人的交流経験と生活習慣病の予防を進めよう。
- 2 介護保険のデイサービスや訪問看護をもっと利用してもらおう。
- 3 高齢者の金銭管理を支援する仕組みを作ろう。

取り組み こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 福祉サービスや金銭管理が困難な高齢者を対象に支援を行います。
- デイサービスや訪問看護事業者の利用を促進するため、条件整備を進めてまいります。

課題 B

障がい者が安心してくらすような支援をすすめよう

- 1 他の地域より障がいのある人が多いまちであることを正しく理解しよう。
- 2 服薬や食事の管理をきちんと行い健康に過ごせるようにしましょう。

取り組み こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- それぞれの障がいに合った支援や社会資源のあり方について、地域の関係団体と検討していきます。
- 行政や関係者による支援に加えて簡易宿泊所の管理人やボランティアを含めた地域による支えあいを充実します。
- 障がい者が健康に過ごせるよう、地域の医療機関や関係団体、区役所のネットワークづくりを進めます。

こんな話題からまちの課題が見えてきました

数は少なくとも子どもの課題は大きい

寿学童保育のことは新聞でも取り上げられました



課題 C 子どもが育つ環境を整えよう

- 1 「子どもが育ちやすいまち」「子どもを育てやすいまち」にしよう。
- 2 子どもを育てるのにふさわしい環境づくりをしよう。

取り組み こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 福祉保健の制度を活用し、生活支援を行います。
- 学校や児童相談所、寿福祉プラザ、ことぶき学童保育などと連携するシステムを作ります。

課題 D 女性が暮らしやすいまちにしよう



- 1 多様な問題を抱えた女性が地区に埋没することなく、安心して暮らせるまちにしよう。

取り組み こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 行政における女性相談・支援の体制を強化します。
- 地区内の女性が必要な福祉保健サービスを受けられるようにします。

課題 E 結核と生活習慣病の予防を推進しよう



- 1 「結核の予防と啓発」を健康対策の中心に据え、地区全体の健康増進を図ろう。

取り組み こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 地域や関係機関で結核検診の受診や生活習慣病の相談を勧めます。
- 多くの病院・医院での検診が可能な体制を整備します。

課題 F 産廃ゴミや粗大ゴミの不法投棄を排除しよう

- 1 再び不法投棄されないような工夫をしよう。

取り組み こんなことができるよ、こんな効果があるよ

- 地域と行政（横浜市、区役所、警察）が連携して不法投棄を防止する仕組みを作ります。
- まちの美化対策を検討し、ゴミが捨てられにくい環境づくりに取り組みます。

第3章 ～中なかいいネ!～ 区社会福祉協議会として

(中区地域福祉活動計画)

地域福祉推進のために

平成7年度に策定された「みんなでつくろう福祉ワールドー中区地域福祉活動計画」も本年度で最終年を迎えることができました。その間、「個人が尊厳を持ってその人らしい自立した生活が送れるように支えることが社会福祉の理念」をスローガンに、かつて無い規模で福祉改革が行われております。福祉サービスを「措置」から「選択」へと介護保険制度が導入されました。また、本年は障がい者の自立支援法が制定されるとともに、次世代育成のための様々な施策が展開されています。一方、これまで以上に地域福祉推進が叫ばれ、地域で支えあう仕組みづくりが求められています。そのためには、さらに「地域力」を高めなくてはなりません。中区地域福祉保健計画～中なかいいネ!～では、「社会福祉協議会」に大きな期待を寄せています。

地区社協ってなに？

横浜市内では、地区社協の活動範囲がおおよそ連合自治会町内会単位に組織され、現在249の地区社協があります。全国的には、地区社協が組織されている地域は約27%に過ぎませんが、指定都市においては、ほぼ100%組織されています。(名古屋市以西の大都市では、すべて小学校区における「校区社協」「学区社協」と呼ばれています。)中区内の地区社協は、地区民生委員児童委員協議会単位に区内全域に組織され、現在12地区社協があります。「地域福祉を推進する中核」の最前線として、区内の地区社協は、これまでも食事サービスやサロン活動など見守り活動、広報啓発活動など幅広い活動に取り組んできました。しかし、協議会特有の課題もあります。地区内の様々な団体の集合体のため、地区社協の認知度(必要性)に温度差があり、活動を難しくもしています。地域福祉の推進役は必ずしも地区社協でなくてもかまわないわけですが、数多くの参加団体で構成されている団体として、ネットワークを上手に図り、地域福祉推進の旗振り役として期待されています。

知り合い、出会う大切さを育てよう



地域活動が活発になるには

- 1 中区社会福祉大会
 - (1) 地域福祉活動や金品寄託に顕著な個人や団体を表彰し、活動を評価すると共に活性化を図ります。
 - (2) 地域福祉活動の発表を通して区民への福祉啓発を図り、交流を深めます。
- 2 地区社協活動の支援
 - (1) 地区社協活動推進のために情報や資金を提供し、活動支援をします。
 - (2) 会議や研修を実施し、担い手の発掘や育成をします。
- 3 地域ケアプラザの支援
 - (1) コーディネーター会議で情報交換や研修を実施し、課題の共有化や職員の資質向上を図ります。
 - (2) 小地域活動の活性化を図り、ブロック会議への参加や連携しての事業を実施します。
- 4 共同募金配分金事業助成の実施
 - (1) 地域福祉活動団体を対象とし事業助成金の交付により活動を支援します。
 - (2) 活動の活性化を図り必要に応じた情報提供をします。
- 5 中区福祉保健活動拠点の運営
 - (1) 福祉保健活動団体に活動拠点を提供し、活動の活性化を図ります。
 - (2) 利用団体調整会議を実施し、要望や意見を受け入れ環境整備をします。
- 6 ふれあいサロン事業の推進
 - (1) 地区社協に助成金を交付し、活動を支援します。
 - (2) 活動の活性化を図り必要に応じた情報提供をします。
- 7 子育てサポートシステム事業
 - (1) 子どもを預けたり、預かったりすることで市民相互の連携を図り、地域ぐるみの子育てをめざします。
 - (2) 登録者を対象として交流会や研修を実施し、事業の充実を図ります。
- 8 子育てサロン・親子の広場の実施
 - (1) 地域ケアプラザや地区社協と連携し、子育てサロンの推進を図ります。
 - (2) 活動の活性化を図り必要に応じた情報提供をします。

住みよい環境をみんなでつくろう



- 1 学校での福祉教育への協力
 - (1) 地域ケアプラザや当事者及びボランティアグループの協力を得ながら福祉体験学習の場を提供します。
 - (2) 福祉教育用備品(車椅子・白杖・点字板など)の貸出し、福祉教育の推進を図ります。
- 2 中高生夏のボランティア体験講座の開催
 - (1) 区内在学・在住の中高生を対象とし区内社会福祉施設での体験学習を実施し、福祉への理解や啓発を図ります。
- 3 ボランティア需給調整・相談への対応
 - (1) ボランティアの活動を希望する人と必要な人の相談に応じて、適切な需給調整をします。
 - (2) ボランティアコーディネーター研修に参加し職員の資質向上を図ります。
- 4 ボランティアセンターの運営
 - (1) ボランティアセンター事業計画の進行管理を行い、課題解決に努めます。
 - (2) ボランティアセンター運営委員会を開催し、適切な運営と活性化を図ります。
- 5 各種ボランティア講座の開催
 - (1) 地域のニーズに対応した講座を開催し、福祉の啓発と課題解決を進めます。
 - (2) 地域ケアプラザと共催で講座を開催し、地域に根ざした担い手の育成と活動を支援します。
- 6 中区ボランティア連絡会への協力
 - (1) 定例会に参加し、活動の活性化を図り必要に応じた情報提供をします。
 - (2) ボランティア連絡会への助成金の交付により活動を支援します。
- 7 ボランティア情報紙の発行
 - (1) 毎月発行の「Let's ボラ」により区内関係団体や登録ボランティアにタイムリーな情報を提供します。
 - (2) ボランティア連絡会と連携して情報紙を発行し、情報の共有化を図り、福祉の啓発を進めます。

8 送迎サービス事業

横浜市外出支援サービスの実施

- (1) 公共交通機関での外出が困難な高齢者や難病患者を対象として自動車による送迎サービスを提供します。必要に応じ、介助ボランティアによる付き添いサービスを提供します。
- (2) 運転ボランティアを対象に研修を実施し、担い手の資質向上を図ります。
- (3) 活動の担い手の確保及び資質向上のため、ボランティア講座を開催します。

中区社会福祉協議会送迎サービスの実施

- (1) 公共交通機関での外出が困難な方を対象として、自動車による送迎サービスを提供します。必要に応じ、介助ボランティアによる付き添いサービスを提供します。
- (2) 公共交通機関を利用して外出する際に介助が必要な方を対象として、介助ボランティアによる付き添いサービスを実施します。

9 地域福祉権利擁護事業(あんしんセンター)の運営

- (1) 高齢及び障がい者の生活や金銭管理などに関する相談に応じます。
- (2) 福祉サービス利用や金銭管理が困難な高齢及び障がい者を対象に定期訪問や預かりサービスを提供します。

10 生活福祉資金貸付事業の実施

- (1) 低所得・高齢者・障がい者世帯を対象として目的に応じた資金の貸付をし、経済的自立の支援をします。
- (2) 貸付の返済計画など民生委員の協力により要援護世帯の相談に応じ、在宅福祉の促進を図ります。

11 高額療養費資金貸付事業の実施 → 廃止

12 交通遺児見舞金・激励金の支給

- (1) 交通遺児世帯を対象とし、見舞金・激励金の支給により自立生活を支援します。

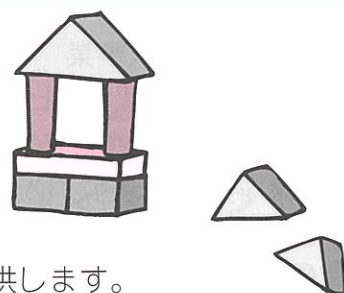
13 共同募金運動への協力

- (1) 民間社会福祉活動の財源となる共同募金運動に協力し、赤い羽根街頭募金で呼びかけをします。

14 年末たすけあい配分の実施

- (1) 区内の障がい者施設や高齢者食事サービスグループに、年末たすけあい募金の配分を行い活動の支援をします。

新しい取り組みを生み出そう



- 1 社協瓦版「ふくしなか」の発行
 - (1) 区民への福祉関係の広報活動として機関紙を発行し情報を提供します。
 - (2) 区内の福祉活動や社協紹介を通して福祉の啓発を図ります。
- 2 ホームページの運用
 - (1) ホームページの更新によりタイムリーな情報を幅広く提供します。
 - (2) ホームページの運用により幅広い層への福祉の啓発を進めます。
- 3 会員研修の開催
 - (1) 会員への福祉啓発や援助技術の向上を目的として、様々な会員研修を行います。
- 4 一般相談
 - (1) 社協業務全般を通して随時相談に応じ、解決の手段や適切な情報提供をします。
 - (2) 寄せられた課題を共有化し、解決の方向性について検討します。
- 5 苦情処理

苦情の受付をし、適切な処理により状況の改善を図ります。

交流のさかなまちづくりをめざそう



- 1 介護保険関係支援事業
 - (1) 中区介護保険事業者連絡会『かいこのWal なか』へ参加します。
- 2 精神保健関係支援事業
 - (1) 公開講座を開催するなどし、精神保健福祉に関する普及啓発を図ります。
 - (2) 必要に応じボランティア講座を開催し、担い手の発掘を図ります。
 - (3) 当事者によるサロンの運営を支援します。
- 3 中区障害者団体連絡会への支援・協力
 - (1) 中区障害者団体連絡会の事務局に参画し、情報提供を行うとともに、各種イベントを共催し支援します。
 - (2) 事務局会議に参加し、情報の共有化を図るとともに、必要な支援を検討します。
 - (3) 中区障害者団体連絡会への助成金の交付により、活動の活性化を図ります。

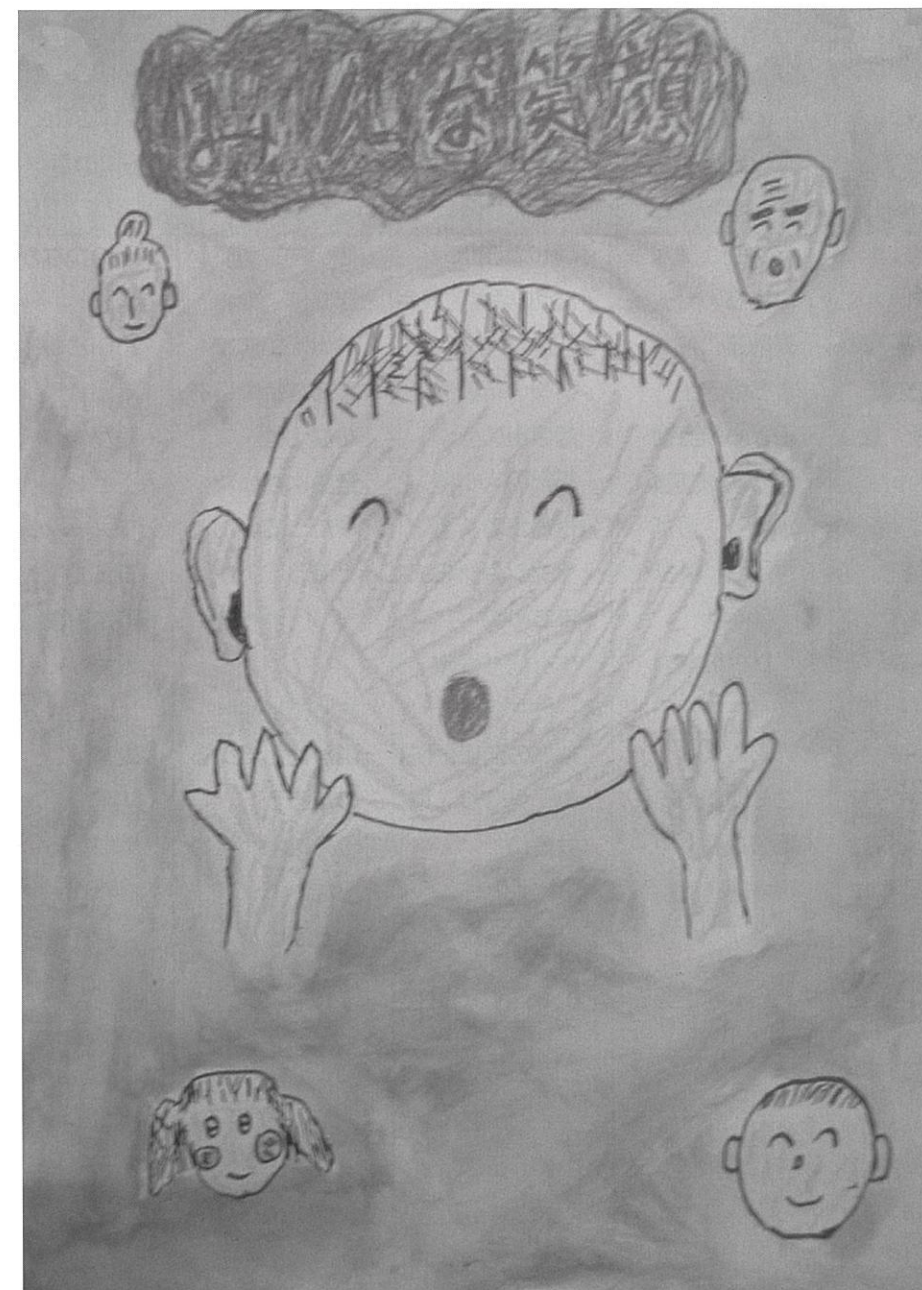
- 4 軽度発達障害児放課後活動支援事業の実施
 - (1) 区内在住の軽度発達障害児（小学生）を対象に、中区福祉保健活動拠点において、ソーシャルスキルトレーニングを行います。
 - (2) 定期的にケースカンファレンスを実施し、適切な支援計画を作成します。
 - (3) 関係者・機関を対象として定期連絡会を開催し、事業の活性化を図ります。
 - (4) 活動の担い手を確保するために、適宜ボランティア養成講座を開催します。
- 5 中区障害児余暇支援事業の実施
 - (1) 関係者・機関との共催で、中区在住の障がい児の夏休みの日中余暇支援事業を実施します。
 - (2) 関係機関との共催で、中区在住・在学のがい害のある中高生を対象にキャンプを実施します。
- 6 障がい者支援のための情報提供事業の実施
 - (1) 障がい者地域作業所等の活動や、そこで作られる製品の周知を図ります。
 - (2) 製品を作る当事者の資質向上のため、定期的な研修を支援します。
- 7 各種委員会・運営委員会への参加
 - (1) 障がい者関係施設を運営する法人及び施設の評議員会、運営委員会へ参加します。
- 8 各種福祉関係事業・行事への協力等
 - (1) 障がい者や地域の方々の交流を目的として、中区障害者団体連絡会との共催で、ポレポレまつりを実施します。
 - (2) その他の事業・行事にも適宜協力します。

～平成16年度 地域話し合い12地区の課題のまとめ～
活動の参考にお使いください。



元街小4年 叶 草さんの作品

みんながお年寄りとあいさつしあってふれあいをふかめていきたいというきもちをこめました。



元街小4年 生天目 翼さんの作品

みんなでいつも笑顔でいてほしいという思いです。

平成16年度地域話合いのまとめ一覧

区分	第1北部	第1中部	関内	埋地	石川打越	第2	第3	第4南部	第4北部	第5	第6	新本牧	
開催日時 (参加者数)	11月13日(土) 13:30~15:30 (8人) 野毛地区センター	11月17日(水) 18:30~20:30 (9人) 吉田中 コミュニティハウス	11月13日(土) 18:30~20:30 (2人) 朝日会館6F	11月22日(月) 18:30~20:30 (4人) 不老町地域 ケアプラザ	11月22日(月) 13:30~15:30 (45人) 石川町諏訪神社	1月22日(土) 10:00~12:00 (30人) 山下町町内会館	1月24日(月) 13:30~15:30 (14人) 竹之丸 地区センター	2月3日(木) 14:00~16:00 (27人) 上台集会所	2月5日(土) 13:30~15:30 (44人) 北方老人 憩いの家	1月28日(金) 18:30~20:30 (15人) 本牧 地区センター	11月8日(月) 13:30~15:30 (17人) 箕沢地域 ケアプラザ	1月29日(月) 10:00~12:00 (7人) 本牧 地区センター	
	12月6日(月) 18:30~20:30 (6人) 野毛地区センター	12月18日(土) 13:30~15:30 (8人) 吉田中 コミュニティハウス	12月6日(月) 13:30~15:30 (8人) 朝日会館6F	12月13日(月) 13:30~15:30 (9人) 不老町地域 ケアプラザ	11月29日(月) 18:30~20:30 (23人) 石川町諏訪神社	2月16日(水) 13:30~15:30 (27人) 山下町町内会館	2月19日(土) 10:00~12:00 (24人) 麦田地域 ケアプラザ	2月26日(土) 14:00~16:00 (21人) 上台集会所	2月24日(木) 13:30~15:30 (39人) 北方老人 憩いの家	2月19日(土) 13:30~15:30 (19人) 本牧 地区センター	11月20日(土) 13:30~15:30 (15人) 箕沢地域 ケアプラザ	2月18日(金) 18:30~20:30 (9人) 本牧 地区センター	
課題のキーワード (太字は件数の最も多いテーマ)	地域の活動 ・やっている活動 ・学校との交流 ・集まる場所・機会	・マンションが多いまち ・高齢者 ・まちの安全 ・ 子どもの安全 ・情報の入りにくさ	・交流の場所 ・交流の活動・機会 ・情報の伝達 ・商店街の人 ・高齢の人 ・夜帰ってくるマンションの人 ・ まちの姿	・あいさつしています ・やっています。 こんな活動、あんな活動 ・昔はよかった 今だっていいことある	・ 人のつながり ・人材 ・あいさつ ・高齢者 ・障がい ・子ども ・マナー ・ゴミ ・不法投棄 ・環境	・ まちづくり ・まちの良い所 ・外国人との交流 ・防犯・防災 ・ 援助方法 ・プライバシー ・世代間交流 ・集合住宅	・高齢者 ・子育て・子ども ・障がいのある人への理解 ・こんな交流があったらなかなかいいね	・まちのよい点 ・子ども ・障がい者 ・災害 ・ 地域の連携 ・ゴミ	・ 交流 ・情報・相談 ・防犯・防災 ・一人暮らし ・町内会・自治会の課題 ・子ども ・手助けの仕方・され方 ・まちのよいところ ・G30 ・環境整備	・ 地域活動 ・このまちの自慢 ・地理的な問題・交通 ・地域の環境 ・防災 ・こんなまちに住みたい ・動物を飼っている人のマナー等 ・ゴミ	・ 住民の交流 ・人材 ・まちの助け合い ・ごみ出し ・環境美化 ・道路環境 ・防災 ・防犯 ・健康づくり ・子育て ・あいさつ ・情報提供 ・施設整備	・まちの良い所 ・マンション ・ こんなまちになってほしい ・まちのよくないところ ・災害への不安・対策 ・困っていること ・ボランティア ・障がい者への理解 ・ゴミ問題 ・情報	
	人とつながり ・あいさつしています ・声をかけて助け合い ・マンション住まい	・外国人の人 ・ゴミ問題 ・風俗店 ・環境	・地域の防災・防犯・見守り・助け合い ・町内会 ・行政へ	・ 誰が住んでいるのだろう ・伝えたい、伝わらない ・困っている人声を出して ・みんな一緒に	・災害 ・防犯 ・気になる	・自治会の課題 ・地区活動 ・地域の集い ・G30	・あいさつ・声かけ ・近隣の情報・プライバシー ・近所づきあい ・町内会・地域活動	・まちの環境 ・まちの安全・防犯 ・高齢者	・まちのよいところ ・G30 ・環境整備	・コミュニケーション ・マンション ・見守りとプライバシー ・防犯 ・緊急時の対応	・ボランティア ・障がい者への理解 ・ゴミ問題 ・情報		
	生活環境 ・ まちの姿 ・ゴミ・カラス ・区役所 ・公園 ・まちの安全・安心	・まちのすがた ・高齢者 ・障がい児・者にやさしいまちづくり ・騒音 ・あいさつ・声かけ ・地域の交流 ・町内会	・居場所 ・安心・安全	・一言では申せません		・行政への要望	・まちへの関心 ・我がまちの自慢	・ゴミ ・公園 ・マナー ・ 地理条件・交通					

第1 北部地区 地域話し合い まとめ

人とのつながり

あいさつしてます

- 声かけ・あいさつ→情報を届ける。
- 近所の人に会ったら自分からあいさつするよう心がけている。
- あいさつし合う関係が出発点。
- 黙礼から始めて、情報交換していく。
- 朝、散歩の人が声を掛け合っている。
- まちの人への声かけが徹底している。
- 長く住んでいるので、会えばあいさつしている。

声をかけて助け合い

- 地域の集まりに入りたい人が分からないので、誘えない。
- 気軽にお茶のみに誘える関係が希薄になっている。
- 高齢単身者がいても、地域とのかかわりを希望しない人が多い。
- 困っている人のことも関係ないと思ってしまう（身内いないと分からない）。
- お手伝いしようと思っても拒否。きっかけづくりが難しい。
- 声かけしても来てくれないと、それ以上のかかわりはプライバシーのことがあって難しい。
- とても大変な状況になってから関わったこともある。
- 給食会に出てこない人がいる（声かけしても）。
- 近所の人が声を掛けてくれて助かります。

- 近所の人に留守番を頼むことがある。
- 電気をつけっぱなしにしていると、近所の人が声を掛けてくれる。昔からそういう関係がある。
- 緊急時、助け合いができるように活動している。
- 隣の人に緊急連絡先を教える。
- 隣の地区・地域の活動を知りたい。
- 精神保健福祉活動をこの地区で展開し、普及啓発を心がけたい。
- ネットをつくり人脈を広げたい。
- お互いのプライバシーを守りあっているところがよい。

マンション住まい

- 集合住宅の人も、活動に参加してほしい。
- 町内会に入ってほしい。
- マンション内では、火災報知器の音が聞こえず、火災が起きたとき心配。
- 最近越してきたマンションの人達の状況がよく見えない。
- 外部の人が同じマンションの人が分からない。
- 同じマンションの中でもどんな人がいるか分からない。

資料編

地域の活動

やっている活動

- 町内のことは分かるが、隣の町のことはよく分からない。
- 町内に若手がいなくて後継者不足。
- 町の方々が自分たちの町をよくしようと努力しているが、みんなの歯車がうまく噛みあわないところがある。
- 近所で手助けが必要な人がいる。
- 声を掛け合って集まりに参加している。
- 給食会は参加費無料（連合町内会が助成している）。
- 地域のサロンに町内会長、民生委員が多数参加する。
- ラジオ体操が毎日ある。
- ふれあい給食に消防の人が来て話をしてくれたりと、地域のふれあいの場所になっている。
- 老人クラブが活発。旅行に行くのがいい。
- 町の役員会に40人が集まり、組織力・結束力がある。
- 給食会で地域の役職者が地域の人と直接顔合わせができる。
- 民生委員が障がいのある方を把握しているのでは？

学校との交流

- 本町小を中心に、町内会や社会福祉団体が事業を行い、地域の親睦を深めている。
- 本町小PTAが5時～7時に年末パトロール。
- 音楽通りがある。音楽のまちにしたい。
- 本町小と一緒に静かなまちづくりのイメージを作りたい。
- 本町小・富士見中の校長が地域活動に積極的。
- 本町小の児童と高齢者の交流の場「ふれあい給食」があり、年1回招待してくれる。高齢者の知恵を学ぶ機会になっている。

集まる場所・機会

- 高齢者と交流ができる場や機会があればよい。
- 子どもと年配の人が、同じ建物で交流できるとよい。
- 地域で指導者の育成等を支援してほしい。
- 子どもと関わる場所がないと感じる。
- 母親が集まれる施設がほしい。
- 子どもが放課後安全に遊べるまちにしたい。
- 「はまっこふれあいスクール」をもうすこし遅い時間までやってほしい。
- 不老町地域ケアプラザはよく利用されている。
- ひとり暮らし高齢者対象の給食会のようなものが、子ども対象の事業としてあれば、ひとりで子育てしていく人の助けになる。

生活環境

まちの姿

- 下町人情がある。
- 何があっても問題視されないで吸収されていく。
- お互いに見張り役をしない、追いつめないまちづくりをしたい。
- まち自体はとても暖かい。
- 野宿者・障がい者を排除しないまちを目指したい。
- いろいろな人が混じっている良さを感じる。子どもにとってもよいことだと思う。
- 文化的なまちづくりができたらよい。
- 古くから住んでいる人が多く、人の出入りが少ない。
- 外国の人が増えた。
- ホームレスの人が公園に集まっている。
- 買い物に便利なまち。
- 日ノ出町・野毛町が通学路になっている。何とかしてほしい。
- 土地が高いので、障がい者施設がない。
- 飲み屋が多い。
- 競輪・競馬場は仕方がないのかもしれないが、住みやすいまちになってほしい。
- 空き店舗は風俗店になってしまう。
- 引きこもりの人がどこにいるのがアンテナを立てる。
- 狭い地域内でのサポートをすることが大切ではないか。

ゴミ・カラス

- 朝、カラスが道路に多くいて歩くのが怖い。ゴミをカラスが荒らす。
- 高齢者ひとり暮らしの人、ゴミ出しに片道15分かかるので、手伝っている。
- ゴミを散らかさないようにしている。

区役所

- 区役所内に保育スペースがほしい。保育スペースがあれば子どもを連れた人がゆっくり書き物ができる。

公園

- 公園が少なく、子どものいる家庭は困っている。
- 整備されていない。
- 整備されすぎて子どもが遊びにくい。

まちの安全・安心

- 窓を開けて外出したいが、何かあったらと心配。
- 夜はひとりで心配。
- 防犯が心配。
- 黄色いジャケットを着てまちを巡回した。
- 日ノ出町で3つの町内会の有志が集まってチョッキを着てパトロールしている。犯罪防止の役目をしている。
- 交番の会（パトロール）清掃の日を設けて掃除している。
- 戸じまりをしている。

第1地区中部 地域話合い まとめ

外国人の人

- 外国人が多いまち。日本人も周りに増えるといひ。
- 働いている外国人が多い。
- ゴミの出し方がわからない人がいる。
- 外国人が住人として、今後6割ぐらいの割合で住むようになるのでは。
- 少子化が進むと、外国人の割合が増えるのでは。
- 国籍売買、不法滞在をどうにかしたい。
- マンション入居者に外国人が多く、住民としての把握が難しいし、ルールを守らない人もいる。
- 外国人とはコミュニケーションが難しい。

マンションが多いまち

- マンション住みだが、町内会に入っている。
- マンションの管理組合と町内会が話す機会があるといひ。
- 管理人がいるところは、しっかりしている。
- 集合住宅が増える。
- 若い人が出てしまい、高齢者だけが住んでいるところが増えている。
- マンションを又貸している。(外国人に)
- マンション内に暴力団関係者が住んでいて、トラブルが多い。
- 住むにはよいが、子育てには不向きな面もある。
- 賃貸も多く、誰が住んでいるのか、管理人もわからない。
- 間屋街とマンションが多く、マンションは地域と交流が少ない。
- 地域の行事は多くやっているが、マンション住みの人は、あまり参加しない。
- マンション住みの若い人は、町内の行事にはあまり参加しない。
- 管理組合はあるが、マンションの雑事は管理組合まかせ。

子どもの安全

- 伊勢佐木警察「守ろう隊」を作り、パトロールしている。
- スクールモニター制度あり。吉田中、富士見中、本町小。
- 地域の子、すなおに育っている。
- 生徒の校外での行動に気をつけるくらいのことしかやっていない。
- カラスが子どもを攻撃する。
- 高年齢者の子供より、子ども、青少年のことを考えていくべきだ。
- 子どもたちが他地区から伊勢佐木町に来て、暴れる。
- 高年齢者の子供より、子ども、青少年のことを考えていくべきだ。
- 学校が遠く、近くに分校があればいい。
- 若い夫婦で少し子育ての世話を必要としている人がいる。
- 風俗街が通学路になっている。子どもの育つ環境ではない。
- 登下校で風俗店の前を通り、犯罪に巻き込まれないか。
- 子どもを教育するには適さないまち。
- 本町小→ばらばら登校。東小→集団登校。
- 帰りはばらばらで帰ってくる。
- 子どももあいさつをしている。
- 中学生からの声かけが目立ってきて、あいさつがきちんとできるようになってきた。
- 便利なまちだが、子どもと一緒に住んでいる人が少ない。
- 小学生のことがわかりにくい。情報が入ってこない。
- 地域の子が素直なのは、子の数が減っているからなのか。
- 同じ建物内に小・中学校が一緒等のアイデアがあってもいいのでは。
- 学校の不審者対策として昇降口を閉める・・・止むを得ないと思うが。

まちのすがた

- 犯罪(ひったくり)が多い。
- 近隣の犯罪が多い。
- 店の人が留守の時、盗みに入られる事あり。
- 犯罪、風俗が増えた。
- 汚い、無用心。
- 暴力団がおまつりに参加。定着する背景になっている。
- 防犯を心掛けている。
- ”感謝していること”伊勢佐木町3・4丁目にVTR設置。
- 安全、安心のまちにしたい。
- 誰もが安心して遊べる街区公園の維持。
- 行政と警察がもう少し協力してほしい。
- 規則、規律を守るよう、取締り強化をお願いしたい。
- 伊勢佐木警察署の警察官の数が足りない。
- 夜、防犯で回っても、今の店はチェーン店が多く、手伝ってくれない。
- 防犯に認識がない。
- 放火、寝たばこなど、火災が心配。

まちの安全

- 昔からの住民は下町の雰囲気がある。
- 下町的で結束が固い。顔がわかる関係。
- 庶民的なまち。
- 中区と南区の境。いろいろな面で不便である。
- 交通の便がよい。生活しやすい。
- 住んでいる人がだんだん少なくなってきている。
- 国籍に関係なく、子どもたちは仲良くできる。
- 人通りは変わらないが、単価が下がっている。
- なんとか商店街は持ちこたえて欲しい。
- 一昔前に戻りたい。
- 伊勢佐木町1・2丁目は住人がほとんどいない。
- 商店が近いので、住むには便利。
- 商店は男の世界。女性の出る機会はない。
- お祭りは商人が担っている。
- 商店街はざっくばらん。
- 路上生活者が多い。

障がい児・者にやさしいまちづくり

- 障がい児が外出中にパニックをおこしているとき、虐待と思われる、少し落ち着いたのを待っているとき、親は何もしていないと思われる。「うるさい」と怒られる。
- おでかけワッペンをポスター、商店街に貼って周知してほしい。
- ボランティアがほしい。
- 訓練会のボランティアがほしい。

資料編

ゴミ問題

- ポイ捨てと歩行中のタバコをやめること。
- 清掃を心掛けている。
- カラスが屋上にフンをする。
- ゴミを不法に出す人がいて、カラスや猫がきたり、臭いがする。
- 不法投棄多い。
- 張り紙は取ったりしているが、取れないものもある。
- ゴミ集積所の管理、維持がたいへん。
- 分別の問題が今、頭がいたい。
- 外国人が、収集日に関係なく出す。
- ハトネット、買うが破られる。
- 夜、不法投棄したゴミで迷惑している。
- 自分のマンションで独自にゴミの分別をしている。
- お祭りのときに掃除すると、ゴミがたたくさん出る。
- マンションに住んでいる人は、日中仕事で町内清掃には来られない。
- ゴミが減った。居酒屋など店で処分している。
- 自主的に家の周辺を清掃している。
- 月1回、町内清掃を20人位で班に分かれて行っている。
- マンション前でゴミをあさっている人が、車に轢かれる事故があった。
- ゴミ収集→3ヶ国語で書いてある。
- 店で働いている人のゴミ出しが気になる。
- 分別するとき、怪我をすることがあった→業者も考えて欲しい。今後、働きかけていこうと思っている。

環境

- まちを良くする方法が解らない。
- 町内レベルの話し合いの問題ではない。
- 東京並みに20分で移動できるようにしてほしい。
- 住みよい環境をどうつくるか。

風俗店

- 風俗営業がまた増えてきている。
- 一定の条件で止めて。
- 風俗に勤めている人の病気に対する状況がつかめない。
- 性風俗店が増えている。
- 性に関する規制がない。(昔は赤線地域だった)
- 噂町、夜になるとネオン、ピカピカ風俗の町。困ったものです。
- いかがわしい商売が増え、青少年育成にも困っている。
- 風俗営業の店がルールを守らない。
- 一日中エステ等に客を呼ぶ客引きが多く困っている。(一般の人が通らなくなった。ゴミが増えた。)
- 風俗店から町内会費はとれない。
- 取り締まりの網をくぐり、新しい形態で営業。

あいさつ・声かけ

- 1人暮らしの老人に声かけや手助けをしている。
- あいさつ、目配り、気配り支えあいができるまちにしたい。
- あいさつを心掛けている。
- 近所の人や顔をあわせた人とあいさつするようにしている。
- 地元の住人は少ないが、会えば会話があり、声かけて、立ち話をする人が多い。

地域の交流

- みんなが意見を出し合って、よいまちにできればよい。
- ちょっとした料理など持っていったりして、話を聞いている。
- 高齢者も大事だが、子どもも大事。
- 交流することが一番だと思う。
- もっと年をとったら、どうするのか・・・隣近所との付き合い少ない。どうなるのかな?
- 隣近所との付き合いが希薄である。
- 町内で声をかけても、若い人は手伝ってくれない。
- 人との交流が少ない。たまり場がなくなった。(町内会館を活用して欲しい。)
- 町内清掃を通し、地域の方々と交流するよう心掛けている。
- 多くの方が参加できるまちづくりができるといひ。
- 顔見知りの方がたくさんいるまちにしたい。
- 障がい児おでかけワッペンをつけている子どもが歩いていって、励ましの言葉をかけてくれる。町内会に入って、近所付き合いをするようにしている。
- 町内の催物をさかんにおこなって、高齢者、子どもにも参加を呼びかけている。
- 子どもが少ないので、子どもと交流ができていない。近隣の付き合いが少ない。
- 顔なじみを増やし、世間話、情報交換をするようにしている。
- レクリエーションなどの行事への参加が少ない。
- 高齢者と子どもの交流が少ない。

高齢者

- 定期的に高齢者の問題について、見に来てほしい。
- 曙町3・4丁目、高齢者が多い。
- 1人暮らしの人でも、介護保険や子どもが近くにいるので、心配ない。

騒音

- 朝までバンドが入っている店の音がうるさい。
- 主要公道(車道、歩道)の環境維持。
- 16号線の自動車の騒音で安眠できない。
- 16号線上大岡一馬車道は、一車線しか使えない。

町内会

- 不景気で町内会費を払わない店が多くなる傾向。
- 老人会を中心に活動活発。
- ちょっとした依頼にも答えている。
- 町内会、老人会がまとまっている。
- 皆よき隣人。(町内住民のみ)
- チェーン店は町内会の運営に理解がなく、町内会費の不払いなどがある。
- サラリーマンの役員はいない。
- 家庭防災員になることで、女性が町内会の活動に関わるきっかけとなった。
- ウィズの上は家庭が多いが、町内会には入っていない。
- 商店街でいいところが見つけにくい。

情報の入りにくさ

- 必要な人はヘルパーが入っているようだが、本当のことはわからない。マンション内には入っていけない。
- 相談相手がいなくて。どこへ相談していいのかわからない。
- 何か問題があったら、民生委員は何をしていると言われる。
- 学童保育、保育所等の情報をどこで手にいれたらよいか、わからないのでは。
- お年寄りや困っている人の情報がほしい。
- ひとりになった時に、どこに相談すればよいか。
- 情報が町内に広まらない。書類を配ってもらえない。民生委員頼まれても区から情報が来ない。町内との境は見落とされやすい。
- 民生委員をしているが、訪ねていくのを断られる。
- 高齢で困っている人、虐待されている子どもを捜すのは難しい。
- 個人の情報が入らない。
- プライバシーの問題から情報提供は困難。
- 高齢者の方々があまり必要ないという態度を示されるので、対応が難しい。
- 民生委員が訪問しても、押し売りと思われて、ドアを開けてくれない。
- 隣との話がない。
- 隣に住んでいる人を知らない。

地域の防災・防犯 見守り・助け合い

- 避難場所がどこで、どう行けばいいのかわからないのか、誰が指示を出してくれるのかわからない。
- 地震発生時のレベルに、分類したものができているのか。
- 地震等大規模災害発生時、行政レベルの対処マニュアルはできているが、町内会レベルでみんなが理解しているのか。
- 町内会レベルのマニュアルをつくる必要がある。
- ひったくりにあう。
- 放火がある。
- 郵便物が抜き取られる。
- 弱者救済と言うが、どこにいるのか。誰がするのか。民生委員はある程度把握しているが、守秘義務が関わってくるので情報が出せない。
- 外から見て、何かあったかわかる緊急システムがほしい。

行政へ

- 行政の無駄使いを地域福祉に回してほしい。

町内会

- 組織（町内会）に入りたがらない人が多い。
- 町会行事等活発に行っており、団結している。
- 民生委員と保健活動を連携したい。
- 民生委員が関わりにくい。情報が入らない。
- 役員はいろんな人がやった方がいい。
- 町内会が高齢化。会員になる人が減ってきている。
- 町内会の清掃活動が少ない。
- 民生委員を若い人が引き受けてくれるといい。

まちの姿

- 横浜開港以来の史跡が多い。
- 水泳をしたいが近くにプールがない。
- 施設が少ない（公園・保育園）。
- 関内から不老町ケアプラザは遠い。
- 散歩コースが多い。
- 景色がよい。
- 車いすでも外出しやすい。
- 交通の便がよい。
- みなとみらい線開通。あまり経済的な動きはない。
- イベントがあると、生活道路が一杯になる。

高齢の人

- 家庭ゴミを3F自宅から1Fへ持って行けない。
- 団地の建て替えで高い家賃を払えず、出ていかなければならないか不安。
- 海岸通りの公団、築40年。人がほとんど住んでいない棟もある。
- 年とったら、他の人との連絡を密にしたい。
- 公団の立て替え。家賃が上がると、高齢者が住めない。
- 海岸通り（公団）の立て替えに伴い、高齢者一人暮らしの人に目がいく。
- 老人一人暮らし。子どもが訪ねると亡くなっていたことがあった。

- 赤レンガなど、イベントの音がうるさい。
- 地下道が利用しにくい。エスカレーターがほしい。地上を安心して歩けるように。
- マンションラッシュで、新住人が多い。
- 長く住んでいるので、お互いの顔がわかる。
- 長く住んでいるので、住民はほとんど顔見知りで挨拶を交わす。
- 夜の人口が少ない。
- 商業地域なので、住んでいられる方が夜は少ない感じ。

夜帰ってくる マンションの人

- マンション・アパート等の入居者と、長く住んでいる人の交流が活発にできるといい。
- マンションの付き合いが難しい。
- マンションが多く、お互いにわからない。何をしてほしいのかわからない。
- マンションが多く建ち始め、交流が少ない。
- 新しいマンションの人は、あまり地域に目が向いていない。
- きっかけをつくって、マンションの人と交流したい。

- ビル街であるため、住居が少ない。
- 子育てとしての環境が悪い（飲食店・風俗店がある）。
- 子どもがどこにいるかわからない。
- 一人暮らしの人が、どこにいるのかわからない。
- 隣の人がわからない。誰が困っているかわからない。
- ホームレスが多い。

商店街の人

- 馬車道の活性化。1・2Fは店舗にしたい。
- 芸大の1Fを開放してもらうよう、商店街として申し込んでいる。
- ボランティア、チケット制もいいな。商店街の活性化になるといい。

情報の伝達

- 自治会を通して周知してくれないと、情報が届かない。
- 本当に必要な情報がなかなか手に入らない。
- 情報の伝達が悪い。
- 「センターのたより」を情報提供に役立てている。
- 自分が困ったとしても、言わないと思う。

交流の場所

- 気軽に集まれる場所があるといい。
- 気軽に行ける活動の場がほしい。
- 一人暮らしの老人が外出できるきっかけがほしい（例、お習字）。
- 近所・地域の人同士の交流を活発にしたい。
- 孤立しやすいため、皆が集まる場所がほしい。

交流の活動・機会

- 若い人たちの町内行事への参加が少ない。
- 交流がない。
- 近所づきあいが少ない。
- 長年住んでいるが、その割に近所づきあいが少ない。
- 近所づきあいがほとんどない。何かあった時、どうしようかと思う。
- ホームレスの人とうまく一緒に生活するには？
- 餅つき大会、年1回行っている
- 健康サロン 30～40人参加（関内ホール）。
- 吉田中は、先生が地域を担当しており、地域への取り組みがある。
- 学校からいじめについて解決したいと協力を求められ、地域が責任を持てた。
- 知っている子には声かけできる。

埋地地区 地域話合い まとめ

昔はよかった 今だっていいことある

- 戦前から付き合いがある。戦前は下町みたいだった。
- 昔はいい町だった。つい「昔は・・・」と言ってしまう。
- 戦後からビル街。一戸建てはない。
- 交通の便はよい。道路も完備。
- 企業が多い。
- 町内会の中に防犯灯があるので、暗くない。

伝えたい。伝わらない～。

- すべての人に情報が行き渡らない。
- 催事があっても、すべての人に周知されず、参加者が少ない。
- ほしい情報は人によって違うので、その人に合った情報を伝えるように努めている。
- 親しくなったら、その人に情報を流すことを心がけている。

「困っている人」声を出して

- 手助けの必要な人がよくわからない。
- 自分から声を出してあげれば助けられる。助けてほしい人が声を出してくれない。
- ひとり暮らし、高齢者夫婦だけの世帯等の情報がよくわからない。
- 高齢者の介護をしている。自分の体調が悪くなったらどうしたらいいか、不安。
- 高齢者夫婦。元気だが、事故等で買い物ができなくなって困っている。ちょっと体調を崩したときも不安。

みんな一緒に

- 知的障がい児を育てている。パニックを起こしたとき、障がいのことを知らず、親の育て方が悪い、と見られてしまう。
- 障がい児「お出かけワッペン」をつけて歩いていると、「がんばれ!」と声をかけてくれて心強い。
- 障がい児・者に自然に手助けしてくれるまちにしたい。
- 障がい児・者がいてあたりまえのまちになってほしい。
- 朝、区役所の前に人々が並ばなくてもいいようになるとよい。
- 外国籍の人が多く、言葉が通じないことも多い。コミュニケーションが難しい。
- アルクデイケアセンター（アルコール依存症からの回復プログラムを行なっている地域作業所）では、同ビル内の方々や、周囲の方々に迷惑をかけないように気を遣っている。
- アルコール依存症に対しての偏見が多い。偏見を取り、理解してほしい。
- 小、中、高等、教育機関との連携をとりたい（横のつながり）。

あいさつしています

- 古くから住んでいる人が多い。
- 近隣同士、顔見知りの関係である。
- 他人へアプローチする糸口を見つけるのが難しい。
- 近所の人には自分から声かけ、あいさつしている。
- 顔なじみの「気配り」「支えあい」を広げたい。
- マンション住まいだが、町内会に入り、まちに溶け込めるようにしている。
- あいさつ、立ち話のできる近隣地域にしたい。
- 顔なじみの「気配り」「支えあい」を広げたい。

やっています こんな活動、あんな活動

- エルプラザ通りまちづくり協議会。クリーンキャンペーン、月1回の清掃。町内をきれいにしようという気持ちが出てきている。
- 「埋地歩こう会」がある。
- 公園を掃除してくれる人がいる。
- 「アルクデイケアセンター」が、清掃ボランティアをしている。
- 認知症にならないように、自分でやれることはやるようにしている。
- 老人クラブ、町内会活動に参加したほうがいい。
- 町内会活動に積極的に関わって、コンタクトを取っているが、関わりは一部の人にかたよっているかも。

誰が住んでいるのだろう

- 隣の人、近所の人、誰がいるのかわからない。
- 町内会の人と交流が持てない。
- 人との交わりがない（昼間仕事をしているので）
- 町内会に入っていない人が多い。お知らせを持っていけない。
- 古くからの住人は仲良いが、新住人は入り込みにくい。近所付き合いが苦手な人は難しいかも。
- 集合住宅に住む人がわからない
- アパート、マンションの人は、町内会の行事等に声かけしても出てきてくれない。
- マンションの住人とのかわわりが持てなくて困っている。特に大型マンションの住人とのかわわりは持ちにくい。
- マンションが一つの団体として町内会に入らない方向になっているところもある。
- マンションが建つが、地権者が地元に住んでおらず、連絡が取りにくくなっているところが多い。
- 簡易宿泊所の人とは付き合いがない。
- 地域の人と、簡易宿泊所の人との関係は難しい。簡易宿泊所をこれ以上作ってほしくない。

ゴミのことで困っています

- ゴミ出しのルールを守っていない。
- ゴミの捨て方が悪い。夜、車で来てゴミを置いていく。
- 他地域の人がゴミを持ち込み、捨てていく。
- 家庭ゴミに事業者のゴミが混入して、色々問題が多い。
- 非常ベルのいたずら。ゴミに火をつけられる。
- ゴミの分別が始まったら、どうなるか不安。分別できない人が出てきそう。
- ゴミを捨てられないまちにしたい。

居場所

- 公園がなくて、子どもの居場所がない。
- 公園はほしいが、ホームレスの人が住み着いてしまうかも。
- 身体障がい、高齢者など、就労していない人の昼間の居場所があるといい。
- 学校開放しても、スポーツクラブが独占しており、他が使えない。
- アルコール依存症の人が回復したあとの就労の場、日中の居場所がほしい。
- 親が安心して子どもを遊ばせられ、おとなもくつろげる「日の出川公園」「扇町公園」を、近隣住民の協力で維持したい。

安全・安心

- 救急車、消防車が来る回数が多い。
- 外国人を含めた犯罪行為があとを絶たない。
- 警察の取り締まりも行き届いていない。
- 夜中から未明までカラオケの音が響く。警察に言うと、一時収まる。
- 障がいのある人用の避難所があるといい。
- 町内会に入っていない人が多いので、防災のことが心配。
- 避難所にペットも対応してほしい。
- 車いすで外出した時、ちょっとした段差で上がれない。道路の段差がもっと少なければいいのに。

一言では申せません

- 人が少なくなってきて、計画作りが難しい。
- 埋地以外の人にあまり自分の地域のことを話したくない。
- このまちの計画は難しい。
- 問題が多すぎて、一言では申せません。
- 住民の思いが手近で出せるようになりたい。
- 住民が互いに考え合えるようになりたい。
- 住民が行動に移し、充実感、達成感が得られるまちになったらいい。

マナー

- 町内での決まり事を守らない人がいる。
- 犬のフンを始末しない人がいる。
- 駅が近く、タクシー運転手が植え込みに小便をして困っている。
- 地区内にある女学校の生徒のマナーが悪い。言葉使いが悪い。
- 障がいのある人も大丈夫と言って横断歩道を渡っていく人もいる。
- タバコの吸殻に困っている。(駅周辺)

ゴミ

- ゴミの収集場所が少ない。管理ができない。
- マンションなどゴミ出しのルール違反。
- 4月からのゴミ分別が不安。
- ゴミの問題。夜バイクにゴミを乗せ捨てていく。女性では、それを見てみだめと言えない。

不法投棄

- ゴミ出しのルールが守られていない。
- 不法駐車(輪)に困っている。
- 区境(中・南)のためか、ゴミの不法投棄が多い。
- “いいまち”というより、“きれいなまち”という意味でゴミの始末に気をつけている。
- 家のまわりを毎日掃除するようにしている。

あいさつ

- 若いお母さん(一部)ですが、あいさつができない。声をかけるが若い方は無視をする。
- 引っ越してきた人があいさつがない。
- 近所に関係なく、自分からあいさつするよう心掛けている。
- お年寄りに声をかけるようにしている。お元気ですかと一声かけている。
- あいさつの後、一言二言言葉を多くしている。

環境

- お年寄りが気軽に集まって話し合える、運動できる場所がほしい。
- 子連れの若夫婦。公園デビューでなく駐車場デビューしている。公園など気楽に集まれる場所があるといい。
- 町内の人々が集まる場所がないので、お互いに親密な関係になりにくい。
- 傾斜地にあるため、健康によいが年を取ったら大変かも。
- 坂の階段に手すりがほしい。町内の階段に手すりがほしい。町内の道路の舗装を直してほしい。(歩きにくい)
- 道路脇の落ち葉清掃するとき、交通量が多いので危ない。
- 信号機、青の時間が短いのでは。足を痛めて気がついた。
- 交通の便がよい。公共施設が近くてよい。

- 石川町駅にエレベーターの設置をしてほしい。
- 石川町駅周辺の駐輪場の問題。
- 駐車場とワンルームマンションが増え、地域内のつながりが減っている。駐車場とワンルームマンションが増え、地域内のつながりが減っている。→ワンルームマンションには町内会加入を条件つけている。
- 専門店(魚屋・八百屋etc)がなくなった。買い物できる店が減って不便。
- 障がい者の作業所があるが、何をしている施設かわからず、そこに集まる人が騒いだりゴミを散らかしている。
- 公衆電話が減った。しかも10円は使えない。
- 町内の散歩を兼ね、街燈の状況をチェックしている。

高齢者

- 一人暮らしで入浴中、具合が悪くなったらどうする?
- 具合が悪くなった時、隣家に声かけできない。どうすればよいのか。
- 福祉の人がよく来てくれる。
- 高齢者が多いので、老人会に入るよう連絡している。
- 一人暮らし老人。退院してもフォローできないので退院が難しくなっている。
- 今は元気だけれど、何かあったときにどこに相談したらよいかわからない。近くの人の助けがほしい。
- 高齢のご夫婦だけの世帯が増えてきている。見守りが必要。
- ふれあいサロンにもっと参加してほしい。
- 独居・単身・病弱の男性。顔が見えないと心配。

- 高齢者の通院介助、ゴミ捨て、庭の草むしり、電球の交換などの手伝いがほしい。食事を作るのがおっくう。
- 今は助けてくれる人がいないし、また手を貸すと余計なことと言われることもある。
- 高齢者の夫婦が多いが、その人たちが何か言ってくるというのは少ない。他人が立入るのをきらう。
- 高齢者の方から「車を持っていたら病院、買い物の手伝いをしてほしい」と言われる。
- 「あんしん電話」の加入者が中区は少ないのでは。もっとPRしたほうがいい。
- 一人暮らしなので近所に迷惑をかけないようにしている。
- 介護保険の認定について、自治会の懇談会等にきて話してほしい。まだ知らない人が多い。

人のつながり

- 連帯感が強いまちであるが、あらゆる事にその連帯感を強化することに努力している。
- 古くから住んでいる人同士の近所付き合いがよい。仲がよい。ほとんどの人を知っている。
- 近所がとても協力的。助け合いの精神でやっている。まちに愛着を持っている人が多い。
- 戦争中の隣組のような、きめ細かい助け合いが大切だと思う。
- 高齢者が多く、家の中に一日中いるので外に出て人とのふれあいがあればいい。
- 地域活動がさかん。色々な年中行事がある。
- 暮れの餅つきの時、一人暮らしの方に配布し喜ばれている。
- 町内会が主体となり、祭礼・夜警等の行事に老人から幼年まで一体となっている。その交流が他地域に比べ活発に行われている。さらに助成したい。
- 町内会、婦人会によく協力している。
- 地域の集いにたくさん出てくれるといい。
- 町内会の班長が何かあったら連絡してもらえるようにしている。

- 他人のことに干渉しない、干渉されたくない風潮、プライバシーをどう守るのが。→高齢者対策、防災、ボランティア活動などに多く参加することがポイント。
- 家を留守にする時、隣に声をかけると土産を買ってこないといけなくなる。
- 一人暮らしの人に注意、気配りができるといい。
- 「あんしん電話」の受け手になってるので留守にしないように心がけている。
- 人と人とのつながりがあり温かい。立ち話ができる。
- 昔ながらの近所付き合いを取り戻していきたい。
- 立ち話のできる町内。近所付き合いをよくしていきたい。
- 支えあいをモットーに、何でも話していただけるよう日常の会話を大切にしている。
- マンション住まいだが、町内会に入っている。すすんで理事を引き受けるようにしている。(障がい児の親)

人材

- 町内会の担い手は高齢者ばかり。後継者がいない。人材が不足している。若い人に役員をやってほしい。
- 高齢化が進み、若い人の行事参加が難しくなっている。もっと若い人が参加できるような町づくりをしたい。少子化により現在のような地区の組織ができるか不安。

- 駅が近いので、若い単身世帯が多い。近所の交流が少なくなった。
- 昔に比べ、町内の役員さんが若返っている。
- 夜警を町内でやってくれ、ありがたい。
- 何か困ったことがあったときに参考にしてもらえるようマニュアルのようなものを絵を多く入れて作成してもらいたい。

障がい

- 高齢で足の不自由な人がいるので、声をかけている。
- 福祉にかけるお金が少ないと思う。(23区と比較)
- 災害時、障がいのある人で手助けが欲しい時、黄色いパンダナを巻くことがPRされていない。
- 家族(片マヒ)の世話で精一杯。
- 要援護者に対する地域の理解、見守りがある。
- 障がい児のお出かけワッペンが普及して協力して。ポスター等を店に貼る。
- お出かけワッペンをつけて外出している。頑張れと声かけがある。
- 障がい児がいてあたりまえの地域になってほしい。

子ども

- 公園などがあり、子育てしやすいまち。
- 少子化が進む中で、子どものつながりが少なくなっている。親同士が子どもを含めて、コミュニケーションを図れる場所があるといい。
- 小学生高学年になると行事に参加しなくなる。
- 中学校給食がない。コンビニ弁当が多くなってきている。
- 公園で遊んでいる子どもたちがいない。子どもを安心して遊ばせる場がない。
- 町内会の子育て教室を紹介したら喜ばれた。
- 小学生の夏休みの宿題を、毎年子ども会の人たちと作品作りをしている。

気になる

- 不審者がいて子どもを外で安心して遊ばせられない。
- 不審なセールスが以前より多くなった。

防犯

- 表通りに面しているのに、戸締りには特に気をつけている。
- 昼間は留守の家が多いため、空巣が心配。見回りにより減ってきた。
- 石川小学校区では中区の子ども達だけが防犯ベルをもらっていない。
- 娘の帰宅時間が遅いため、夜道が心配。女性の一人歩きは危険。
- 放火が多く心配。夜回りをしている。
- 商店街などはダンボールをまとめて収集するシステム。放火の心配がある。
- 押し売りの対応に困る。

災害

- 地震などの災害時、古い家屋が多く老人が多いので逃げ道が心配。
- 道路が狭いため、消防車・救急車が近くまで入れない。
- 迅速な安否確認や避難誘導、安否確認名簿作成(事前登録制、公開の同意前提)が必要。
- 石川町の避難場所は遠くの元街小。すぐ前の石川小に行けるよう、縦割り行政を改めてほしい。

- 避難所は車イスの人のことが考えられていない。障がい者と家族が気兼ねせずいられるようにしてほしい。
- 災害時は協力し合いたい。一人暮らしの人へ対応ができるのか。
- ペットに対する災害時の対応を。
- 災害時、パンダナの色で要援護者、援助者の区別をし、助け合える地域にしたい。
- 歩行が不自由な人は火災に注意。
- 横浜学院の水源は災害時、役に立つので止めないでほしい。

第2地区 地域話し合い まとめ

まちづくり

- まちがきれいになってきている。
- 観光地だがまちのホスピタリティ（もてなし）が充分とはいえない。
- 捨て猫などの問題が多い。
- 歴史のあるまちで商業地区と住みよい環境が誇り。
- 公園の芝などをきれいにしたい。
- 花火大会などで公園の芝が荒らされないよう注意喚起が必要。
- 街路樹や花を植えるところみが減らせる。
- 横浜のイメージUPのために商店街との連携で地域の交流が活発になればよい。

まちの良い所

- あいさつをするよう心がけている。
- 近隣の付き合いが円滑で仲良く生活しており問題も少ない。
- 町内会活動がしっかりしていて秩序が保たれている。
- 自治会行事に積極的に参加している。
- 日常的なつながりがある。
- 高齢者には特に声かけを積極的にしている。
- 子育て支援グループの会員が増加している。次世代育成に役立っている。
- 祭りを他地区と合同実施することで交流が増えてきた。

援助方法

- 高齢者や障がい者への援助の仕方が分からない。また援助を申し出ても断られる。
- 閉じこもり高齢者が多い。
- 単身世帯が多い。
- 高齢者は多いが、それほど日常生活で大変な人（要援助者）は見当たらない。
- 定期訪問（民生委員）しても話ができない。
- 容態が急変した時などの緊急連絡先が分からず困ったことがある。
- 今後、自分が年をとったときに不安がある。
- 近隣の高齢者などには声かけをしている。
- 要援助者には手助けしたい。

世代間交流

- 子どもの数が少なく子ども会活動や子育てグループ等への勧誘ができない。
- 世代間交流ができる場所（保育園・ケアプラザ等）、多目的に使える施設が多くあるといい。

地域の集い

- 地域の役員は熱心に活動している。
- 若年層・児童と高齢者の交流が少ない。
- 世代間交流のきっかけがなく、交流がない。
- 地域の集会・祭り等に参加する人が少ない。
- 老人会に参加する高齢者が少ない。

集合住宅

- 自治会への加入が少ない。
- 近隣の交流がなくコミュニケーションが少ない。
- 高齢化が進んでいる。
- 若い世代の流出が激しい。

自治会の課題

- 自治会役員のなり手が少ない。
- 民生委員の活動に理解がない。
- 役員の負担が大きい。
- 男性はリタイア以後からしか地区活動に参加できない。
- 掲示板等の設備が少ない。

G30

- ゴミだしのルールを守らない人がいる。
- G30について説明会を開いているが今後が心配。
- G30の周知方法をWEB利用するなど工夫してほしい。
- 地下鉄の開通により地方から多くの観光客が来るようになり、観光客がゴミを捨てていく。
- 観光客が多い地域なためごみ清掃には心がけている。良いまちであることを見て欲しい。
- 資源ごみの大切さを認識できる機会があると思う。

地区活動

- 地域の活動に無関心な住民が多い。
- 新しく流入した世代の住民は地区活動に無関心で先住の住民との接点が少ない。
- 制度の整備とともに近隣の助け合いなどは少なくなっている。

行政への要望

- 地区活動（子育て）への補助金が少ない。
- 行政の担当者が地域のことを理解していない。
- 公園を増設して欲しい。
- 郵便局が近隣になく不便。
- 行政文書や連絡はわかりにくい。
- 役所はいつも受身である。もっと自ら地域に働きかけをして欲しい。
- 通学路の整備などもしっかりしてほしい。

外国人との交流

- 中国人と考え方や文化の違いからコミュニケーションが上手いできないことがある。
- 国際的な地域で相互に干渉しないため住みやすい。
- 国籍に関係なく交流がありよい関係ができている。
- 国際交流が図れる機会があるといい。
- 外国人との挨拶などをすよう心がけている。

防犯・防災

- 青空駐車場でいたずら等被害が多い。
- 勧誘の電話や違法駐車・放置自転車の問題が多い。
- 不審者の訪問が頻回にある。
- 災害時に自宅が倒壊するなどの不安がある。
- 防犯への認識をアピールしている。
- 家の周囲を見回っている。

プライバシー

- プライバシーを重要視するあまり、必要な情報が入らない。
- また援助も困難になることがある。
- プライバシーが強調され過ぎると、近隣の善意が通じない。
- 障がい者の援助をしたいと思うがプライバシー問題があり入りにくい。

第3地区 地域話し合い まとめ

子育て・子ども

<子どもの居場所>

- 子どもの（放課後の）居場所・遊び場が少ない。既存施設の活用を。
- <地域・環境>
- 子育て環境が昔に比べて整った。地域の協力が得られている。
- 同じ町内でも小中学校の学区が異なるところがある。
- 幼稚園で送迎バスが少ない。

<子ども同士>

- 子ども同士のつながりから親同士のつながりができるとよい。

<親に対して>

- 今の親は主張はするが、面倒な役はしてもらえない。子ども会の役などやってもらえない。

<親にとって>

- 子育て中の急な病気が大変。

高齢者

<安否確認>

- 電灯がついていないと倒れていないか気にしている。一人暮らしの高齢者の世帯に訪ねるようにしている。

<近隣・地域との関係>

- 地域との関わりが少ない高齢者がいる。
- 体調の悪い時に手伝ってくれる人がいるといい。昼食会や歩く会など町内で高齢者の交流活動を行っている。
- 買い物などお手伝いできるようにしている。町内は高齢者が多いので、

高齢者ケアを心がけている。身寄りのない高齢者からの相談に困っている。

<家族との関係>

- 家族同居でも日中家族不在時に何かあったら心配。介護者が急病の時に対応してくれるところがない。

<まだ大丈夫という思い>

- 老人会には「年寄りではない」といって入会しない人が多い。
- 介護サービスの利用につながらない。

<情報>

- 福祉保健の情報が伝わりにくい。

<その他>

- 自分が高齢になったときの不安。高齢世帯は火事が不安。

障がいのある人への理解

<まちがった理解>

- 障がいや病気についての知識がないために間違った対応をとる人がいる。

<理解を広めるために>

- 簡易パンフを作り、回覧・掲示板でお知らせする。
- 障がい児者やその親も障がいの理解を広める工夫をしている。

<家族は>

- 障がい者が家族にいと安らげない。
- 冠婚葬祭時に本人を預けることはできないか。

<こうあってほしい>

- 障がいの有無に関わらず、地域に住んでいる人同士、平等に暮らせるといい。

近隣の情報・プライバシー

<支援の必要な人の情報が少ない>

- 個人情報保護もあり、一人暮らし高齢者の情報が少ない。地域での助け合いの障害になることもある。
- マンション住まいの人は町内会に入っていないことも多く、民生委

員にも十分な情報が入ってこないことがある。

<その他>

- 子どもが危ない目にあっても、地域には伝わってこない。

こんな交流あったらなかなかい

- 同じような悩みを抱えた人同士、違う悩みを持つ人同士、理解し助け合おうとみづくり。高齢者とこどもの交流。障がい者とこどもの交流。高齢者や障がい者がふらっと立ち寄れるスペースが近所にあるといい。

防犯・防災

<まちの中の安全に対する不安>

- 夜道が暗く、怖い。子どもの塾帰り心配。電灯や夜回り隊があるといい。
- 留守宅の防犯。

<子どもの安全>

- PTAに呼びかけてパトロールし

てもらっている。

- 夜遅く活動する子どもが多い。

<防災>

- 防災拠点や防災グッズのある場所を知らない人がいる。
- 災害時、車いすや寝たきりの人はどうなるか心配。
- 火災報知器の設置（費用・維持管理）。

あいさつ・声掛け

<あいさつ・声掛けしています>

- 近所で、同じマンションで、バス内で、公園で。あいさつと共に一言声かけている。近況を聞いたりしている。
- 昔からの街なので近所同士つながりが深く、会うと必ず声を掛けてくれる。

<こんな人にあいさつや声掛けをしています>

- 一人暮らしの人、子ども、転居してきた人などに声掛けをしている。
- いつもあいさつしているとその人の普段との違いにも気付くことができる。
- 登校している子どもへ声かけているうちに、あいさつを返してくれるようになった。近所の人を声掛けてくれるのがうれしい(小学生)。
- 怪しそうな人に声を掛けたら、いなくなった。
- <戸惑うこともあります>
- 外国人が多いので戸惑うこともある。

近所付き合い

<近隣との関わりが薄い>

- マンション・アパートの住人同士コミュニケーションがとりづらい。
- 近所との交際はあるが、個人の生活の中にまでは入れない。
- 新住民との交流がない。
- 近所の方の顔と名前が大体分かるという地域もある。

<必要なこと>

- 困ったときに相談しあえる近所付き合いのある地域になるといい。
- 地域にとけ込めるよう、町内会やの集会等にできるだけ出席するようにしている。

ゴミ

<集積所の掃除>

- ゴミの集積所の掃除が大変。掃除当番を決めるのも悩み。

<ゴミとカラス>

- カラスに荒らされないようにゴミ袋を2重にしている。
- ゴミ捨て場にカラスが集まっていて、通行の邪魔。

<マナー>

- ゴミ出しのルールが守られていない。
- 他の地域から車でゴミを捨てに来る人がいる。
- ポイ捨てが多い。町にゴミ箱を増やしてほしい。
- 学校の帰りにゴミ拾いをしている。
- 子どもがいる時間に公園清掃をやっ

公園

<子育てがらみ>

- 公園では子どもが遊んでいない。
- 高齢者が見守り、安心して遊べたら親も助かる。
- 高学年の子どもも遊べる公園があるといい。

<マナーがらみ>

- ゴミを持ち帰らず汚れている。
- 子どもを遊ばせづらい。

<公園と安心>

- 山手公園に居ついている人がいるようだ。
- 公園や地区センターが避難所になると安心。

まちへの関心

<みんながまちに関心を持つことが大切>

- 若い人や仕事をしている人は町内の行事にあまり参加できない。
- 子どもたちが町内に関心をもつように小さい頃から町内会の行事に参加させて、関わりをもってもらうことが大切。

<まちをよくする工夫>

- ゴミの整理や階段清掃、雪かきなどしている。
- まちのルールを守るようにしている。
- 最近の社会的な事件について地域でも話し合っていきたい。
- 町内会館の整備が必要。
- 「あそこに行けば何らかの解決方法が見いだせる」といった場が近くにあるといい。

<こんなまちにしたい>

- 近くで子どもの遊ぶ声が聞こえるまち。
- 隣近所と親しい関係をもてるまちにしたい。
- みんなで見守っていける様なまちにしたい。
- 自分の生まれ育ったまちは好きです。

<その他>

- 商店が少なくなって買い物は多少遠出する必要がある。
- 商店街に人がたくさんいて歩きづらい。

地理条件・交通

<道・交通>

- バスが通らないので大変。小型バスがほしい。
- 方面によってはバスの本数が少ないところがある。
- 交通量が増え、事故やけんかが増えた。車の違法駐車が多い。
- 車いす利用者にとって、道の段差がとてつらそう。
- 登下校時に人が転ばないように石を道端に寄せている(小学生)。
- 点字ブロックにひびが入り割れているところがある(小学生)。
- 付近に商店がない。交通手段のない高齢者はどうしているのか。

<坂が多い>

- 坂が多く、普段の徒歩にも困難な時が多い。
- 外出がおっくうになる。
- 山手駅から上がっていく坂で転ぶ人が多い。
- バス停までが坂で距離もある。
- 買い物・病院行き交通手段が必要。
- 細く入りくんだ道が多く、急に階段になるところがあり、ペピーカーには辛い。「この先階段」の表示があればよい(柏葉)。
- 麦田トンネルが坂で自転車が勢いよく走ってきて危ない。
- 高齢者のゴミ出しが大変。道も狭いので高齢者や子どもには気がつけている。

我がまちの自慢

<環境>

- 緑が多く、心が安らぐ。
- 静かな住宅地、住みやすい。
- 昔風のよいところが残っている。

<利便性>

- 散歩によい地域。
- 観光やショッピングの便がよい。
- ケアプラザが近くにあり便利。
- 交通の便がよい。

- 老人クラブ会員は70～80歳代中心で参加するにも坂道が大変。準備を手伝っている。

<道が狭い>

- 道を広くし、二車線にして、駐車もできるようにしたらいい。
- 救急車やポンプ車が近くまで入れなくて、対応が遅くなる。今後のことが心配。
- 非常時に緊急車両が入れるようにならないか。
- 災害時に避難場所まで遠くて行けない。

マナー

<ペット>

- 犬の糞が目立つなどのマナー違反。

<放置自転車>

- 放置自転車がなかったが、警察からシールをもらって何度も貼って注意をしたら減った。

<たばこ>

- たばこを吸いながら歩いている人がいる。

町内会・地域活動

- 町内会等の比重が重い。
- 行政は任意団体に任せることが多いが、入会・集金業務は行政がやってほしい。
- 町内会の存在を知らない人がいる。

まちの良い点

- 集合住宅できて、雰囲気が変わってきているが、高齢、障がい、子ども等みんな、助け合っている、今のままのまちであって欲しい。
- 商店街が近い。買い物するには便利。(小さな)公園が多い。雑音なく、日当たりが良い。
- まちが比較的きれいな。地域の清掃が活発。緑が多い。町内をきれいにするためにごみ拾いをしている。助けたり、助けられたり出来るまち。
- ほとんどの人達が、顔見知りで気軽に声かけができる。笑顔で挨拶出来る。一人暮らしの方、知り合いの方には、なるべく声をかけるようにしている。危険なセールスが来ていると思われた時は、近所で声かけている。犬の散歩時などあいさつ交わすようにしている。
- 永年住んでいる人が多いので、比較的顔見知りが多く、安心。反面気の合う人、そうでない人が、はっきりしている。
- 障がい者の施設が多く、学校活動などを通し自然とボランティア交流ができています。いろんな障がいをもった人達がさりげなく地域で暮らしている。普段はあいさつ程度なのに、自分たちですんで雪かきをしてくれる人々がいる(車椅子の方のために)。障がいを持つ人や、気軽に声をかけあう雰囲気がある。
- 女性ががんばっているまち。女性のつながりが強くまとまっている。
- 元気な高齢者が多い。自分も家の外で野菜作り、木工作りをしている。大鳥小の紙芝居の粋をつかった。
- 小学生がふれあいサロンに来て、交流している。また、アルミプルトップを集め、車椅子を贈ってくれた。
- タクシー運転手が、家中まで介助してくれて、ありがたかった。
- 迷子になった障がい者を介助して、電話をしてくれた、どんな人がどこにいるか(全部ではないが、思っている人たちがいる)特に商店街の方々は好意的。

子ども

- 少子化の影響が、子ども会とか町内会との交流を増やしたいが、なかなか若いお母さんが溶け込んでこない。自治会でもう少し、子育て支援に協力できればいいな。
- 安心して遊べる公園があるとい(高学年の子や、中学生には規制が多すぎる)。
- PTAも巻き込み、お母さんたちにも参加してもらいやすいように、気をつけている。
- 交通安全期間中、朝街頭に立って挨拶しても、なかなか子どもから「いってきます」の声が聞こえない。
- 学校教育の中で、子どもたちと高齢者のふれあいが、6年間続いている。
- 子どもはあいさつしてくれる。お母さんからも「いつも、お世話になります」の一言が欲しい。
- 知らない子に声をかけるのは、戸惑う。やたら声をかけてはいけないと言われた。
- 子どもが近所に住んでいてもあまり交流がない。もっと声を掛け合いたい。
- 転入してきた人への声かけでは、子どもがいると、声をかけやすいが、子どもが成長すると、地域の集まりに参加しなくなる。
- 年末の夜警を、町内で子どもに呼びかけている。13~14名出席。
- ベビーコアラ、たくさんの人に参加して欲しい。子どもは大切なので、もっとすすめるべきだ。区はもっとお金を使うべきだ。
- 学校からのお便りが(子どものいない世帯にも)くるが、最近の子どもを取り巻く状況が分かり、有効なこともある。
- 小さい商店では、子どもに声をかけてくれる。子どもにとっては、良い環境。
- 子どもが、放課後安全で遊んでいるか心配。
- 祭りに、中学校や子どもを中心とした企画を入れて行きたい、そこで交流を持ちたい。
- 子どもとふれあいの機会を作って欲しい。
- 子育ての方法を、親に教えないといけない。子どもが、危ない目にあたり、人に迷惑かけても注意しない。
- キャッチボールなどで遊んでいる子に、声をかけていると、顔見知りになる。

障がい者

- お互いの存在を認め合えるようなまちを作りたい。障がいを持つ人も誰かの為に役に立つことができるので、それが生かせたらよいと思う。
- すぐご近所の方は、グループホームで障がい者の人が暮らしていることを知っていると思うが、地域単位でどれだけ知られているか不明。
- 手足が不自由な人。介護サービスを増やしたいが、年金少なく増やせないでいる。
- 通勤時間帯のバスに、車椅子の人が乗車したら、白い目で周りの人が見ている。社協の送迎サービス拡大できないか?

災害

- 犬を飼っているので、災害時などの動物への対応が、どうなるのか心配。
- 災害時に、スタッフだけでは、何もできないと思う(作業所やグループホームの障がい者に)。若い人が日中いない。災害時の力がない。
- 災害時の対応 車椅子利用の人がいたり、多くの援助が必要となるので、避難など周囲の人の手助けがどうしても必要になる。
- 避難所がどこかだ、知らない人が多い。町内に広場・小公園がなく、お祭り、災害時みんなが集まることなく、困る。
- 幸いにもこれまで大きな水害・台風被害などにあわずにきた地域。そのことが、逆に緊張感が足りない原因になるのでは、と心配。
- ヘルパーが来ない日に災害が来たら・・・不安。
- 災害時、みんな助け合いたい。誰がどこにいるか、どんな手助けが必要か、知っておきたい。
- 災害時の障がい者への対応をどうするか。作業所はあるが、町内会・自治会では対応できない。
- 町内会単位でどれくらい、グループホームのことを知られているのか?災害時にどれくらい助けられるのかという課題もある。

高齢者

- 高齢者は人生の先輩でパワーを持っている。アイデアはあるはず。そんな力を活用できないか。
- 孤独死の発見①新聞屋さん②プロパンのメーターが回っていないことにガス会社の人が気付いた。また、困っていても民生委員との交流がない。(生活保護も民生委員はわからない)。
- 民生委員は、65歳以上のひとり暮らし高齢者等を定期的に訪問しているが、対象の年齢でない65歳前の人が孤独死した(死後5日)。回覧物がそのままなので、気が付いた。
- 近隣に声をかけ、安否確認おこなうが、本人が警戒し、本人からの声があがらない。気軽に声をかけられない。

- 老人一人暮らしの方がいられるが、なかなか訪ねても打ち解けない、あまり差し出がましいことはできないが、高齢になって出来ないときは、素直に受けたいと思う。ヘルパーが来ていてもそれを隠したがる。高齢でも「困っていません」という。高齢者が一人である時の夕パコやストーブの火の始末が心配。介護保険の手続きを知らない人がいるのでは?
- 少しの年金があると、生活保護にならず、かえって生活が苦しい。
- 高齢の夫婦世帯が非常に多い。一人が病気になることあわててしまうのが男性。そのときの手伝いはどうすればよいのか。また、ひとり暮らし男性障がい者で、やはりヘルパーが来ていない日に困っているようだ。

- 高齢女性一人暮らし。週2回ヘルパーを、楽しみにしているが、それ以外の日に、細々とした事にお困りのようである。また、日中独居や一人暮らしの方の話し相手が必要。助けを求めている人は大勢いるが、どう助けたいのか、わからない。
- 老人クラブの会員を増やしたいが、思うように入会してくれない。会員を増やして活発な活動したい。また、お料理教室を老人会でやりたい。どこかで部屋を借りられるかPRして欲しい。
- 認知症の人。最近引っ越してきて、自宅に帰れなくなって、警察の世話になった。近隣の人との情報の共有化が必要。高齢者の安否を、家の前に旗を出すことで確認できる方法にしたらどうか?

地域の連携(全体)

- 自分のできることで、自治会に協力していきたい。また自分でできるだけ生活したいという人を尊重するが、何かあったら・・・と見守りしている。
- 近隣の連携ができていない場所もあるが、地域の連携ができていない所が多いので、できるだけ地域を見守るようにしている。
- 車いすでも、井戸端会議などに参加できれば楽しさが増える。
- 転入してきた人には、班長になれば地域のことが分かるのでは?地域の行事に参加している人達は、親や子どもも含めて地域との関係が出来る。餅つきは老人会の人等、町内会会員100名程度参加した。とても良いことだと思う。
- 乳幼児から高齢者までの、健康づくりに努めているが、どうしたら多数の人が参加できるかを行政もPRしてもらいたい。
- 動いていて、地域のことがわからない。町内会や子供会の役員をして、町に居場所を作る努力をしている。
- 地域の行事があっても、関係ないぞぶりしている人が多く、集まりが悪くて困る。役員になると出てくるが、役をつけないと人が出てこない。町内会が、一部の人の活動になっている。
- 町内会に車椅子が、1台欲しい(老人、障がいを持っている人、災害用として)。
- 何かあった時には声をかけてもらえたり、気にかけてもらえるような関係になれるといい。プライベートの問題はあるが、ここにこういう人達が、住んでいることを知って欲しい(障がい者のグループホーム)。
- 学校と地域と一緒に、先生の話や聞いたり、子どもに声かけをしていきたい。
- 若い人は挨拶しない、どこの人だか分からない。祭りの時は見るが、若い人を見ない。自分の家の前を通る人に、声かけするように、地域の行事に出るよう皆に声かけている。
- 民生委員をしているので、何でも申し出て欲しい。手助けの必要人(高齢者等)は、把握している。子ども関係は、声が上がらない。
- ふれあいサロンを行って高齢者の集える場を提供している。給食会毎週実施している。口コミで誘っている
- 困っている人は、どこに相談していいのかわからない。回覧板も見えていない
- 回覧板、掲示板あまり見ていない。広告の数が多い。本当に必要なものにしたい。
- 町内会でやっている事は、どんな小さなことでも、回覧、掲示などで知らせている。少しずつ、町内会で何をやっているのかわかった、という声が上がっている。
- 新しい住民と、今までの住民が、共通認識をもって問題解決をしていきたい。
- ボランティアができることがあれば、参加したい。

ゴミ

- ゴミの出し方が新しくなるが、よくわからない。ゴミ分別情報を閲覧するが、読まないで情報が届かない。
- ルールの徹底(住民登録の時、「中区のしおり」等も配布し、住民としてあるべきルール等を知らせることが必要)。
- アパートの住人が、ゴミを正しく出さないで困る。分別が増え、どのように指導したらよいか。
- 町内に大きい分別のポストがあればいい。
- 高齢夫婦へのゴミ出しの手伝いをしようとしても、嫌がられる。ゴミ出しの支援が、制度としてあれば、使ってみようと思うかも。高齢者世帯のゴミ捨てを手助けしたい。
- 分別収集に関心が強い。生ゴミをぬかと腐葉土と混ぜて堆肥を作るが、引き取ってくれる所を紹介して欲しい。
- 細い道路しかなく、上の方までゴミ収集車が入れるゴミ置き場が一軒に集中し、苦情が出た。
- ゴミ収集所で、カラスがゴミを散らかしている。昼すぎまで、回収に来ない。飲食店が多い地域、ゴミにカラスが集まって来て散らかすが、皆知らんぷり。
- 生ゴミコンポストの、夏の害虫対策はどうしたらよいか。
- 小規模集合住宅の、ゴミ出しのルール化の徹底。
- 廃家があり、ゴミ捨て場になっていく心配。
- ゴミ集積所が坂の下にある。朝のゴミ出しは、近所の人たちで、声かけてお互い助け合っている。

まちの安全・防犯

- 公園にホームレスの人がいて、子どもが遊びにくい。
- 人間関係が希薄になり、「火の用心」の音がうるさいという声が出てくる。
- 静かなまち。外部の人が来るとすぐわかる、防犯になっている。
- 廃業する店が多く、寂しい、活性化しない。
- 夜は暗い、怖い、放火、空き巣が心配。昔は、鍵かけしなくても良かったが、今は物騒になった。
- 何かあったときの為に鍵をかけずに生活している方は、逆に防犯のことが心配(今までは、全く問題ないまちだと思っていた)。
- 街灯があるが、間隔が大きく、暗くて怖い。家の前の灯りを運くまでつけるようにしている。
- 夜間、明るいまちは、防犯の第一歩。防犯灯として、東電の電柱だけでなく、N T Tの回線柱も無償提出してもらいたい。
- 小学生が、登下校や遊びに行くとき、危ない目にあわぬが、不審情報もあるので心配
- 性犯罪者が、近所にいるか知りたい。
- 最近の事件が気がかり。犯罪のおきない社会を作りたい。
- 交番に、いつも警官がいなくて不安。

まちの環境

- 道路狭く、ゴミ収集車・救急車・消防車も入れずタクシーも入ってくれない。コミュニティバスが入りこめるといい。
- 細い通りをマンション建設用のダンプ・大型車が暴走し、通行人、特にベビーカーや母親が危険である。
- 高台のため、これから先のゴミ出し等が不安
- 下に住んでいる人はデイケアに行っているが、高台だと送迎車が入って来れない。
- 灯油の配達など、最近では家まで持ってこないで、困っている人がいる。
- 本郷町、本牧町1丁目のバス停に屋根が欲しい
- 「地域で公園を管理できます」という提案ができるといい。
- ノラ猫にエサをあげる人がいて、家の周囲についてしまう。
- 学校設備の開放を。高齢者も子どもも自由に学校の設備を使えば、地域の人が学校に入ること、地域の人の顔もわかり、地域が学校を守ることができ、監視カメラの一台よりずっと防犯になる。
- お年寄りが多く、「さみしい」という声を多く聞く。まちの中に、憩える椅子や場所があるといい。
- 商店街の空スペースに、気軽に立ち寄り出来ればいい。地域の人が、もっと気軽に集まれる場所、一緒に昼食できる場所があるとよい。その場所が、福祉・介護の相談できるところになるといい。
- 給食会などに行きたいが、コミュニティの場がない。上台集会場は階段を上がれない方がいて不便。(→その後、リフトが整備されました)
- 街区公園が少ない。事故の心配で遊具もなくなってきている。
- 店(小売店)が少なくなり、高齢者には買い物不便。
- 子どもが、安心して外で遊べる環境だとい(車や治安の面)。
- 山頂公園で、犬の散歩をしている人のマナーが非常に悪い。安心して子どもたちが遊べるよう、放し飼いを禁止して欲しい。看板はあるが徹底していない。
- 山頂公園の一部を、開放できないか(子どもや、高齢者の介護予防のための土いじりの場として)
- マンションは、どんな人が住んでいるかわからない。マンションの子はわかる。
- 階段の横が、少しバイク等が入れるくらいの坂道になっているため、近所のアパートの住人のバイクを置かれ、つかまって歩けない、災害時どうするのか。
- 地域に階段が多く、坂が多いので手すりをつけたい。
- もっと若い人が住めるような環境づくりが必要、交通がバスのみで不便。
- 古いまち。人の出入りも少なく皆、知り合い。治安は良いが、将来が不安。

一人暮らし

- 訪問時、鍵がかかっていたり、ドアを開けてくれないことがある。
- 単身高齢者の把握が難しい（自治会がない・マンションのため）。
- 体調を崩した場合など心配である。
- 外出・干渉を嫌うなど近所との接触がない人が心配である。
- 誰に助けを頼むのかわからない人がいる。
- サークルなどに出てくれば目が届く。
- 地域の会合に欠席されると、情報が入りづらい。
- 独居のため、いざという時、近所の人と連絡がとれるようにしている。
- 鍵を預かる・日中カーテン開けておくなど約束ごとを決めている。
- 夜間電気をつけているか見て、安否確認している（民生委員）。

町内会・自治会の課題

- 役員が高齢化。若い人にまちを愛して欲しい。
- これからの自治会・町内会のあり方、行政との関わりが問題。
- 新しい人が来ないため、役員が変わらず、一部の人に負担。
- 役員を経験し、町内の仕組みや仕事を知って欲しい。
- 役員を経験することで、仲良くなれる。

子ども

- 子どもが少なく遊び場所が活用されない。子ども会がなくなった。
- 子どもが遊べる場所が少ない。
- 子育ての知識を回りに聞けない人がいる。
- 子育て支援が定期的にあると若い母親も安心する。
- 子どもがいる世帯に育児の手伝いをしたい。
- 中学生が町の行事に参加してくれるとよい。
- 子どもが家にこもらず、出かけた気持ちになるようなまちにしたい。
- 子どもと親が参加できるレクリエーションを実施して欲しい。
- こども110番の家が多く子どもは安心。
- 商店街の人はよく子どもに声かけしてくれる。

交流

- 町内会未加入のため、情報が伝わらない（顔がわからない）。
- 老人会が高齢化していて昔のように集まらない。
- 子ども会イベントに若いお父さんが一人も出てこない。
- 男性の参加が少ない。
- 町内会の活動に積極的に参加して欲しい。

情報・相談

- 民生委員に守秘義務がある。どこまで公にしてよいか難しい。
- プライバシーの問題があり、町内名簿が作成できない。
- 地域活動の担い手に必要な情報が開示されない流れがある。
- 福祉に関する情報源・相談先がわからない。
- 個人情報が出回っている。
- 福祉施設・サービスに地域格差がある。
- 個人の情報が入らない。
- 世帯数が多く、住人の把握が難しい（名前もわからない）。
- 回覧が視覚障がい者の人には回ってこない。

- 参加したくても来られない人もいる。
- 同じ町内だが、学校が分かれるため町内会でのつながりができない。
- 新しく越してきた人との交流がない（若い世帯は特に）
- マンションの人との交流がない。
- 地域での世代間交流が生まれたらよい。

防犯・防災

- 空き家が多く、放火が心配。
- 消火器にいたずらされる。
- セールス・不審者の訪問が多い。
- 違法駐車・自転車の放置など通行の妨げになる。
- 街灯が無く、暗い道がある
- 学校からの帰り道不審者がいる。
- 小中学生に対する不審者などの情報が少ない（遅い）。
- 子どもは防犯ブザーを持っている。
- 災害時どのように避難するかマニュアルがない。
- 防災備蓄の場所をもっと増やして欲しい。
- 交番に巡査がいない・警察との関わりが減少（訪問が減った）。
- 人通りが少なくなる時間帯・時期に夜警をしている。
- 交通安全の見守りに毎朝立っている。
- 年1回町内会で防災訓練をしている。

- 町内でのイベント、参加しやすいもの企画している。
- 各組織の人が壁を外し、立場を超えて理解しあえるとよい。
- 近所での挨拶心がける
- お嫁に来た人は子どもを通して顔見知りになる。

手助けの仕方・され方

- 手助け必要な人はいるが、プライバシーがあるため関わりづらい。
- 何かが起こると地域での対応を求められるが、対応が難しい。
- 認知症の人の家には、トラブルを避けるため一人ではいけない。
- 夫婦とも60代で、今はよいがこれから先が不安である。
- 高齢独居になった場合、お金の管理をして欲しい。
- 高齢者虐待なのかどうか、判断が難しい。
- 高齢者が多いため、できるだけ声かけ・話を聞いたりしている。
- 杖歩行の人を病院へ送ったり、高齢者世帯に手助けすることがある。

良いところ

- 町内会の組織がしっかりしている。
- 町内が狭いので住人のほとんどがわかる。
- 緊急時に連絡がとれるよう連絡先を教えあっている。
- 日常的につながりがある
- 集合住宅のため行動がわかりやすい。
- 近所の人たちとウォーキングで健康づくり。
- 高齢者が元気なところがよい。

G30

- ゴミ出しのルールを守らない人がいる。
- 行政の説明不足により、ゴミの分別が実施できるのか心配。
- ゴミ出しに困ったら、手伝ってもらえるしくみがある。

環境整備

- 整備されていない公園が多い。
- 道路を広くして消防車が入れるようにして欲しい。
- 歩道橋の階段のゴムが取れていてすべるため危険。
- 町内会館が老朽化、新しくして欲しい。
- 夜間のカラオケ（横浜市条例違反の時刻）で迷惑している。
- 工場の排水が汚く、臭気がある。
- 日照問題が生じるため、高層ビルは建てないで欲しい。
- 交通機関はバスのみで本数も少なく不便・地下鉄を延ばして欲しい。

第5地区 地域話合い まとめ

動物を飼っている人のマナー等

- 公園で犬の散歩をしている人たちのマナーが悪い。
- 犬の散歩ではフンの後始末もしっかりして欲しい。
- 外で猫を飼っている人がいて、春と秋に子猫が増えて困っている。
- カラス、猫が多い。

コミュニケーション

- 回覧の励行など、情報を共有するよう心がけている。
- 外国人が日本語を話せず、買い物に困っていた。
- 近所との付き合いが苦手な人が多い(特に男性)。
- 転入してきた人と早くなじみたい
- 困ったことがあったらいつでも相談してくださいと話しかけている。
- 自分から手をあげて、手助けが欲しいという人は少ないのではないかと。
- あいさつをして自分を分かってもらいたい。まず地元で“一友運動”から始めたい。
- 若い方がこれから付き合い合っていくか心配だが、声かけをしている。
- 新旧の住民のかかわり方が難しい。
- 町内会はまとまっているが、アパート居住単身の若者や高齢者が多く、把握しにくい。
- 古い住人と転入者とのギャップが大きい、秩序を守るのが困難。
- 井戸端会議から地域情報やニーズを把握している。
- 手助けして欲しいとは思わないが、あいさつくらいはしたい。

マンション

- 隣近所の付き合いがないのでわずらわしくない。
- 集合住宅なので出入りが激しい分、近所付き合いができていく。
- 戸建とマンションが半々のまちなので、全体のまちづくりが難しい。
- マンションが増えてきているので、顔見知りになるように声かけ(あいさつ)を心がけている。
- 新築マンションとの付き合い方。
 - ①販売主と建築施行前に話し合う。
 - ②住民が住みだしてから管理人と仲よくなる。
 - ③管理人を通して近所付き合いを始める。

ゴミ

- ゴミの分別が4月から実施されるが、高齢者は困ると思う。
- ひとり暮らしの方の今後のゴミ出しが心配。
- 朝のゴミ出しが年齢とともに大変になってきた。
- 坂が多いので、歳を取るとゴミ出しが大変。
- 今後ゴミ出しができなくなった時、近所の人に出してもらいたい。
- ゴミ出しのルールを守ってほしい。
- 町内会に入っていない人や外国人にはゴミの出し方のルールが伝わっていない。
- 公園利用時、きちんとゴミを持ち帰ってほしい。
- 住宅によってはゴミ出しの日が徹底していないようで、そのため、カラスが飛び回って家のベランダに停まることがある。
- カラスがゴミ集積所のネットを外し、ゴミを散らす。
- 雨の日、障がい者のゴミ出しの手伝いをしている。
- ひとり暮らし高齢者のゴミ出しについて、「ボランティア大鳥」(大鳥小学校の取り組み)の活動ポートサイトに展開できないか。
- ゴミ出しについて近所の人少し手伝ってくれる。

地域活動

- 給食会やボランティアなど町内活動が活発である。
- 根岸のまちでは、もちつき・神輿などがあり、大人・子どもが一緒になって参加し、地域の交流に役立っている。
- 町内会でクリーンサンデー(30~50名)として月1回草むしりしている。
- 三之谷では隔月で65歳以上の方を対象に茶話会を実施。少しずつ人数が増えている。(町内会員でなくてもOK)。保健活動推進員、友愛活動推進員、民生委員で行なっている。
- 町内の役をやると、人と知り合えて交流が生まれると思う。私自身、いろいろな人と知り合えてよかった。
- 障がい者の友人がたくさんでき、障がい者としての生活を楽んでいる。
- 出生率は下がっているが、子ども会人数はあまり減っていない。

このまちの自慢

- 町内会加入率が高く、まとまっていて近所付き合いも良い。
- 住宅地であり、永住者が多く、心の通った所。
- 地域コミュニティがうまくいっている。
- 子どもが小さい頃、近所の方と仲良くなりいろいろお世話になった。気軽に声を掛け合い、自分の困っていることを話すと、意外と皆が助け合える。
- 事件、事故の少ないまち。
- 道幅が狭い古いまちだが、近隣とのお付き合いもあり、お互いに助け合える。
- 近所付き合いがあり、平地で動きやすい。
- 障がい者、子育て中の人、高齢者にやさしいまち。
- 公園がいっぱいある。
- 自然がたくさんあって子育てしやすい。
- 障がい児・者の作業所、施設が多く、つながりが持てることがよい。
- 本牧通りの美しい街並みと、森林公園や三溪園等豊かな自然と歴史的産物が自慢。
- 公園があり、地域ケアプラザ(本牧原・本牧和田)、地区センターも充実している。静かで住みやすいまち。
- 閻門小学校に水族館があり、地域の人が管理している。

地理的な問題・交通

- 階段や坂が多い。道が狭く車が多い。
- 歩道が狭く、電柱が立っている。自転車道と歩道を区別してほしい。
- 歩道の段差がないとよい。
- 信号を渡りきる前に信号が変わってしまう。
- 交通の便が悪く自転車がないと不便。
- 車椅子の方や障がい者にとっては歩きづらいまちである。
- 道路が渋滞して病院に行く時困る。
- 駐車場がない代わりに交通網はしっかりしているように思える(その分不便な時もあるが)。
- 近隣に公園などの遊び場がないので道路(あまり車は通らない)で遊ばざるを得ない幼児が心配。安心して遊べるところがほしい。
- マンションができて車の通りが激しくなって怖い(違法駐車も増えた)。
- 小さな路地に入ると暗く、高齢者が道に迷い、転ぶことがある。

地域の環境

- (港湾病院がなくなり)医療面で心配。
- 夜は暴走族がうるさい。
- コンビニの前でたむろしている中高生が多い。怖くてコンビニに入りにくいし、ゴミをその場に捨てていくのが困る。
- 学校帰りの子どもに無視される(中学生以上)。

- 地域の行事に皆で誘い合わせて行けるといい。
- 年代の中広く関わられる催しがあるとよい。
- 地域全体が協力しあえるまちづくり(近隣住民のことを知る)。
- まちぐるみでネットワーク作りをするとい。
- 地域の学校で、子どもと高齢者の交流、話し合いを作ってもらいたい。
- 困ったことを相談できる身近な窓口があり、ボランティア、関連機関につなげ助け合えるまち。

防災

- 障がい者の声として避難訓練をしてほしい。
- 災害時にいざ自分が活動できるか心配。
- 体が不自由。地震・火災時に助けてもらえるか不安。
- 災害時の避難場所、備蓄、子どもの安全が心配。
- ひとり暮らしの方の災害時の対応が不安。
- 災害時、緊急車両が入れるよう道路が広くなるといい。
- ペットも大事な家族。災害時の対応も考えて。

見守りとプライバシー

- 孤独死等防ぎたいが、近隣情報が不足。住んでいる人の入退去がわからない。
- 町内にどのような助けを必要としている人がいるかわからない。助けを求めてこない人が多い。
- ハンディのあるひとり暮らしの方の生活全般が心配。
- 困っている人を見つけることが必要(声かけ)。発信することも必要。
- 手助けしたいが近所はどこまで手伝ってよいか迷う。
- 障がい者がどれくらいいるのか、避難する時どうするのか、守秘義務という壁があり難しい。
- プライバシーの問題で名簿に載せられなかったり、住民の把握ができない。
- わずらわしくない分、近所のことかわからない。
- 防災マップを作成したが、独居老人の情報を流すことにつながり断念した。
- 単身者のポストや雨戸が開くか等、通りがかりに目を向けてほしい。

防犯

- 空き巣、泥棒が多い。
- 最近では周りのことに無関心の人が多い。外出、留守にするのも心配。
- 昼間、セールスの電話や訪問が多い。
- まちの治安が気がかりである。
- 以前は鍵をかけなくても平気だったが最近では怖い。
- 日中、留守にするとき防犯面で不安。マンションと言えども安心できない。
- 閑静で良いが痴漢も出る。
- 夜歩いていても安全で、泥棒が入らないまちを望む。
- 三溪園が閉園したあとは静かで人通りがなく、近隣の見守りが必要。

こんなまちに住みたい

- 浜辺がもどってくるといいな(子どもと遊べる砂浜)。
- 山頂公園がもっと実用的な公園(遊べる、運動できる、家庭菜園、ガーデニング貸し出し等)になるといい。
- 若いお母さんたちが交流でき、子どもを安心して遊ばせられる場所がたくさんあるといい。またその情報を発信してほしい。
- 保育園、学童保育、児童館等の充実したまち。
- 障がいのある方がリフトバスに乗る時、乗客がイライラしている雰囲気がある。システムがあるのに残念。
- 生活のルール、義務を次世代にきちんと伝えられるといい。
- 若い人が気楽にボランティアできたらいいな。
- 男性が地域に貢献できるまちであってほしい。
- ボランティアをバックアップできるといい。
- 介護をしていて少しの時間でも留守番に来てほしいと思うことがあった。
- 一般住民が利用できるコミュニティバスがほしい。

緊急時の対応

- 夜間の緊急呼び出しや急病に対する送迎体制を望む。
- 緊急時連絡先(土日・夜間等)を配布してほしい。
- 困った時、どこに相談したらいいのかわからない(ケアプラザでいいのか)。
- 困ったことがあっても、相談員の担当が細分化しすぎて、総合的に話せる人がいない。

人材

- 地域の活動に積極的に参加・手助けして下さる方が多く欲しい。
- 民生委員などの役員の後継者が育つようになるといい。
- 地域活動が忙しすぎる。一人で何役もこなす。
- 地域交流の機会と場がもっと欲しい。(リーダー養成の場)

ゴミ出し

- 分別が始まるが、自分でできるかどうか心配。
- ゴミの収集場所、カラスが突っついて散らかる。大量のゴミで道をふさいでしまっている。一人ひとりの気遣いが大切。ルールが守られていない。
- ゴミ出しに困っている人がいる。(朝が早い・身体的に大変・遠い)
- 収集車が、道が狭くて狭い路地まで入って来られない。そのため、収集場所が家から遠くて大変。

防災

- 地域の中の防災訓練で手助けが欲しい。
- 自分の町内の防災訓練・天災時の対応の情報がなく、わからない。
- 災害時、障がい者が見れる方がいるのが心配。

防犯

- 治安が良い。
- 防犯面で不安がある。夜間パトロール(警察)があるとよい。

環境美化

- 根岸森林公園でのマナーが悪い。(犬のフン・毛・ロープをつけない・ゴミ箱がないのでゴミを置いていく・花火がうるさい)
- 緑が多く、静かで住みやすい。
- 公衆トイレが汚い。
- 自主的に近所の草むしり、落ち葉の掃除、空き缶を拾っている。

まちの助け合い

- 近所づきあいが親しい。助け合っている。近所の人のことを良く分っていて声を掛けやすい。
- 近所でお茶飲み会などができると良い。ケアプラザを活用しては。
- 高齢者の一人暮らしの方が多し。あらゆる面での手助けが必要。
- 気軽にお助けマンとして高齢者世帯に行けないか。(案)
- 地域で大人と子どもの交流ができています。
- ちょっとした買い物や庭の草むしりが大変そうな人もいます。
- 高齢で一人暮らしの方が近所にいる。心配なので声を掛けるが、関わりを持とうとしないので困っている。

住民の交流

- いいところ。人が集まる場所、催し、相談場所がたくさんある。
- 高齢者に比べて、中高年の地域活動参加が少ない。
- 新旧住民や世代間で、顔の見える気楽な交流が持てれば良い。
- 近所の人達と集えるスペースが欲しい。
- 蓑沢地域ケアプラザができて良かった。
- 子どもから高齢者まで一体となって活動できるシステムがほしい。
- 男性の地域活動参加が、もう少し活発になればよい。
- 外に出ようとしない人、出てこられない人をどうやって引っ張り出すか?相互の誘い合い、意識づくりが大事。
- 地域活動に参加する人は、いつも同じ人だ。
- 精神障がい者。友人がなく孤立。障がい理解ある話し相手が欲しい。
- 地域にどのような人が住んでいるのか分からない。

健康作り

- 高齢者が足腰を鍛えられる場が、身近にたくさんきてほしい。
- 坂が多いので、坂道を歩くことで健康づくりに役立てたい。

子育て

- 子どもの数が減った。
- 子育て中の母親のサポートが必要。

あいさつ

- 自分からあいさつをするようにしている。近所ではあいさつをするのは当たり前になっている。
- お互いに声を掛けているので安心。
- 新しい人達には声をかけづらい。
- あいさつから街づくりが始まっていく。あいさつ運動を望む。

情報提供

- 高齢者が多いが、何を必要としているのか分からない。
- 手助けを必要としている人が居るのか分からない。
- 援助が必要としている人が声を出さない。

施設整備

- 腰を掛けて休める場所が欲しい。
- 銭湯がない、ケアプラザを開放したらどうか。
- 地下鉄が欲しい。

道路環境

- 道が暗い・狭い・坂が多く高齢者にはきつい。階段が多いのでスロープ作ってほしい。デコボコで車椅子が揺れる。
- 複雑で道の説明をしにくい。(救急車を呼ぶ時困る)

まちの良くないところ

- 訓盲院があるので障がいについてはわりあいと理解があるが、あまり気にしていない住民もいる。(例) 通学路に飛出た枝を切る協力等、近所同士では云いにくいので第三者がフォローしてくれれば良いと思う。
- 単身の老人が“老いたら子に従え”と子どもの住む所の近くへ転出している。
- 住宅のまわりや公園に中高生が集まり、騒いでいるのは迷惑である。
- いくつかの福祉団体があるが、横のつながりが悪いように感じる。

災害への不安・対策

- 被災時、隣近所で安全確認をし、声をかけ合って避難できるような連絡網があると良い。
- 防災訓練はあるが、連絡網が整備されていない。
- プライバシーを重んじたいことは理解できるが、防災面などで不安を感じる。
- 災害時の避難誘導の計画をたててもらいたい。
- 被災時、聴覚障がいの人は電話もかけられず、何がおきているのかが分からず、困る。
- 空き巣が心配。
- 住んでいる人の割に歩いている人が少なく、不審者が心配。パトロールができれば良い。
- 防犯灯はあるのだが、少し暗い。
- 夜は外灯を点け、門を施錠し、火の始末も必ずするよう心掛けている。

ボランティア

- ゴミ出し前の掃除や、ゴミ収集後のネットの片づけをしている。
- 新本牧公園の掃除ボランティアを週に1度、6~7人で行っている。
- 近隣の視覚障がい者への援助を申し出ている。
- 視覚障がいがあるので買い物の手伝いをしたい。
- ボランティア活動をしていたが、自身が病気になり、今までできていたことができなくなり鬱的になった。この計画の中で気楽に助けを求められるものがあると良い。
- 近所に住む1人暮らしの老婦人。高所の電球の交換など気軽に声をかけてくれれば協力したいと思う。
- 三溪園のガイドボランティアをしていて、脳血管障がいの後遺症のグループを案内した。車椅子使用時の案内マップなどがあるとよい。
- 退職した男性たちが参加しやすいように、気に入った事、時間、場所を提供し、ボランティアにつなげたらどうだろうか。

まちの良いところ

- 祭りなど地域の活動を一生懸命やっている。
- まちに活気があり、気軽に声をかけられるような明るい雰囲気がある。
- むかしから住んでいる人と、新しい人とが良い意味でまざっている。
- 近所の人々が挨拶してくれるのでやさしいまちだと思う。また、外国の方でも挨拶を返してくれる。
- 緑が多く、文化施設が近い。買い物に便利。

マンションのこと

- マンションだと挨拶もなく、管理人が誰か知らない人も多い。表札もかかけていない。
- マンションだと出入りが激しく、誰が住んでいるのかわからない。(外国籍の人も多い)
- 集合住宅が多いため、人が歩いていないのが気になる。
- 団地が増え、人数が増えたので雰囲気が変わった。
- マンションにおけるゴミの分別が気になる。(ゴミ集積所がメチャクチャ)
- 近くに欲しい物を売っている店が少なく、閉店した店の跡にマンションばかり建つ。
- 2~3年の間にこの地域が変わってしまった。マンションは増えているのに、閉店する店が多くなった。
- 660世帯の集合住宅の75%が自治会に加入しており、会員の自治会協力度が厚い。

- 華やか・賑やかな所と、昔ながらのところがあ、住みやすいまちだと思う。
- 学校までの通学路がとても広く、子どもに安心。
- 近くに山下公園・海の見える公園があったり、ミュージシャンが多く輩出されていたり、有名なところが多く、住んでいて誇らしい。
- 現在、地域環境は良好だが、今後は分からない。

こんなまちになって欲しい

- 挨拶から顔なじみになれるまち
- お互いに困った時に助け合えるよう、声をかけあえる関係づくり。
- ハード面より心のバリアフリーを。
- 障がいのある子どもをこの地域で一生過ごさせたい。
- いろいろな立場の人が出会い、上下関係もなく、お互いのことを理解し合える地域社会
- 困った人がいたら気軽に声をかけられるような明るい地域にしたい。
- 気軽に助けることができると良い。
- 自分から発することで、周りの人に助けられる。自分から言うことで返ってくることも多い。お互いに言い合うことが大切。
- 中区内に特別養護老人ホームを増やして欲しい。
- 山手駅に駐輪場を設置して欲しい。
- 地下鉄の開通の話はどうなったのか。気になる。
- 公園など、身近な場所で気軽に参加できるような体操教室などがあれば良い。
- 土・日に児童の集まる場所、児童館が欲しい。
- 高台にある住宅地は買い物が不便なのでハマちゃんバスなどの交通方法があれば良い。

障がい者への理解

- 中途失明者への支援が困難になっている。
- 視覚障がい者の高齢化率が高くなりつつある。
- 昔から住んでいるということもあり、障がいにも理解があり、住みやすい。
- 障がいがある人に対する福祉がしっかりしている。
- 障がいを持つ人が仕事に就き、税金を払う事で少しでも地域に役立つようにしたい。
- 障がいについて地域の人に知って欲しい。
- 障がい特性に理解のあるまちになって欲しい。
(例) 自閉症等の発達障がいはみかけでは分かり難く、ちょっとしたパニックを起こしたりしていても“しつけ”ができていない、わがまま、騒々しいととられかねない。
- 障がいのあるなしにかかわらず皆が認め合う住みやすいまちになって欲しい。

困っていること

- 路上駐車がが多い。
- 坂道が多くて大変。スロープがあったり、段差がなかったりすると良い。
- ケアプラザを利用することがあまり伝わっていない。
- 毎日、朝から子どもを連れてパチンコ通いをしている人がいて気になる。
- 対面販売の小売商店が減少している。
- 市立港湾病院の閉院(3月)が非常に残念。4月から病院のスタッフが変更なのが気になる。

ゴミ問題

- ゴミの分別が難しい。(特に視覚障がい者)
- ゴミ出しのマナーが悪く、カラス・猫への対策が必要となっている。住民の意識を高める必要がある。
- ゴミ捨てのマナーが悪くなってきており、公園も汚れてきている。
- 犬の散歩でフンの処理をしない人がいる。
- 老人クラブでゴミ拾い・掃除をおこなっているが年を取るにつれて活動が大変になりつつある。若い世代に引き継ぐにはどうすればよいのか。

情報

- 民生委員は地域の高齢者についてなどよく把握しているが、民生委員以外の方の訪問は断られることが多く、関わる事が難しい。
- 団地内老人クラブの会長をやっているのに会員の中に独居高齢者がいることはわかっているが、生活状況まではわからない。
- 障がいのため、回覧板を読むことが難しく、情報が入りにくい。
- 困ったときに必要な情報(地域情報・行政情報)が得られる地域であって欲しい。

中区地域福祉保健計画 策定委員 (50音順)

※は公募委員

役職	氏名	所属・役職等
1 委員長	清水 浩一	明治学院大学社会学部教授
2 副委員長	増尾 俊一	中区連合町内会長連絡協議会埋地地区連合町内会長
3 副委員長	向山 秀樹	中区医師会会長
4 委員	※五十嵐 渉	地域作業所ブルースカイ運営委員長
5 委員	池田 信義	中区障害者団体連絡会副会長
6 委員	稲川 雅巳	中区老人クラブ連合会理事
7 委員	※大河原 潤一	介護者のつどいチューリップ副代表
8 委員	※大谷 卓雄	中区歴史保存会運営
9 委員	小俣 理恵	山元町保育園主任保育士
10 委員	木原 修	中区民生委員児童委員協議会 第4南部地区民児協会会長
11 委員	※黒川 和弥	中区障がい者生活支援スペースぽ〜と
12 委員	佐々木 茂雄	中区ボランティア連絡会会長
13 委員	※佐藤 真理子	中区民生委員児童委員協議会 寿地区民児協会会長
14 委員	※島村 圭子	三溪園ガイドボランティア
15 委員	関根 津多子	中区食生活等改善推進員会幹事
16 委員	※高橋 洋一	横浜市薬剤師会理事
17 委員	南雲 正子	中区保健活動推進員会副会長
18 委員	※西堀 美和子	中区障がい児地域訓練会
19 委員	林 真由美	「かいこのWa!なか」副代表
20 委員	※降旗 知加子	中区子育て支援者
21 委員	松浦 徳治	中区老人クラブ連合会副会長
22 委員	三枝 公一	不老町地域ケアプラザ所長
23 委員	森田 稔彦	中区歯科医師会会長
24 委員	山形 光正	中区薬剤師会会長
25 委員	※吉田 直子	医療通訳ボランティア
26 委員	渡部 専枝郎	中区障害者団体連絡会事務局長
27 委員	片岡 勇司	中区社会福祉協議会事務局長
28 委員	金井 良樹	中福祉保健センター担当部長

横浜市中区福祉保健課
 平成18年3月発行
 〒231-0021 横浜市中区日本大通35
 電話 045 (224) 8330
 FAX 045 (224) 8157
 横浜市広報印刷物登録第170742号
 種別・分類 A-QA 041